新女界

第二巻 第九號

明治四十三年九月一日發行（毎月一回發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳卷第九號目次

●婦人の理想を讀む　安井哲
●聖書に見ゆたる婦人觀　口村佶郎
●キコブ、マリヤの母　海老名彈正
●斜に見たる家庭　一色醒川
●歐米見聞記　本田增次郎
●とはの夢　野口せい子
●小供の虛言　海老名みや子
●淸國人のマモニズム　片山幽吉
●不思議な邂逅　元良よね子
●水難救助手傳雜記　瀨谷孤浪
●九十歲の高齡になられたる德富老先生の修養　鹿子木津也
●隨感錄
●孝子田孝子林
●編輯だより

完全無缺頭髮用

夏になつて自らも不快、他人をも不快に感せしむるものは毛髮のふけと惡臭です、女髮結が屢々病に罹る源は此猛烈な惡臭の爲めに神心を煩ふからだと申します

此點に於て第一に御勸め致しますのは千代田香油であります本品は純粹の椿油を根本とし歐米流行の香料を配劑した佳品です

毛髮を漆黑ならしめ ふけを防ぎ くせを直し

芳香優秀で長時間を保ち香水の代用を爲し自ら心神を爽快ならしめます

特製七十錢　大瓶三十五錢　中瓶二十五錢　小瓶十七錢

試用見本は郵劵代用にて御申込次第送附す

スワン石鹼

純白で湯水に浮き價安くして品の善いスワン石鹼は到る處の小間物、化粧品、藥舖にあり

スワン石鹼
日本一手販賣　東京馬喰町四丁目　山岸三之助
電話浪三七九三
振替口座一九九七八

婦人世界

九月一日發行　第拾號　一冊拾五錢　郵税一錢五厘

束髪と日本髪の優劣……村井弦齋

▲糠のお蔭で病氣全快した實例愈よ多し……▽

◎再婚の可否につきて某教師に答ふ……農學博士法學博士 新渡戸稲造

▲私を助けて働いてくれた亡き妻の平生……秋元子爵▽

◎趣味ある名流婦人の一番古いお友達しらべ

▲慈善家の江戸ッ子婆さんを訪ふ記……一記者▽

◎關西の女學生の美風……奈良女子高師校長 野尻精一

▲玄米の料理法（弦齋夫人料理談）……一記者▽

結婚前の理想と結婚後の實際……鳩山新夫人　森新夫人

▲染物と織物（裾摸様の話）……川村文芽▽

◎我が半生の哀史（小説よりも奇なる實歴談）……女子高師範教授黒田氏夫人 黒田鏗爾子

▲女づれで富士登山した私の日記……山田邦枝子▽

◎愛兒を失はんとして漸く助かりし實験……實業之日本社長 増田義一

▲良人を助けて大學を卒業させた妻の苦心……木川能智子▽

◎理想的の消毒を實験したる話……村井弦齋

五十年間の我妻の内助……森村市左衛門

東京京橋南紺屋町　實業之日本社　振替貯金口座三二六

羽仁もと子編輯

毎月一回
一日發行

婦人之友

定價
一冊金拾貳錢
半年六十五錢
一年壹圓廿錢
（郵税共）

●三卷七號（八月一日發行）

便利なる臺所＝其三（口繪）
身體の鍛錬……羽仁もと子
子供と夏休み……
毎日の時間割……
おさらひの日割……
卒業證書（讀切小說）……鹿州生
仕立物の參考（一）……齋藤春代
○子供の雨合羽。○子供の帶。○負ひ半纏の寸法。○大人の長襦袢。
家屋と衛生……
夏の料理……みどり
▲蜆汁▲冬瓜の汁▲すゐとん▲泥鰌とじ▲鰹のあんかけ▲肉詰胡瓜のシチユー▲厚燒玉子▲茄子の胡麻醬油▲里芋のでんがく▲煮桃
主婦の經驗……
○肩あげと腰あげ○子供の前掛は考へもの○最も手輕なる風呂の炭消し○白瓜の糠みそ漬
家政問答……編者
育兒問答……編者
子供に冷水摩擦をさせたる實驗（課題）……
讀者消息 夏の臺北より。抱き乳母の利害。前とは異なる希望と樂しみ……

●三卷八號（九月一日發行）

發行所 東京小石川雜司ヶ谷町 振替東京壹壹六〇〇番 婦人之友社

内科、小兒科、婦人科

牛込區北山伏町十二番地
區役所通り西三四丁

女醫 前田園子

電番一九一二

午前宅診 午後往診

●産婦人科 宅診午前

●小兒科 往診午後

病室、産室ノ設アリ入院ノ需メニ應ズ

院長 女醫 鷲山彌生

東京市麴町區飯田町四丁目三十一番地

東京至誠病院

電話番町二二五七番

日本赤十字社副社長小澤男爵閣下題字
京都看護婦學校長ドクトル佐伯理一郎先生序
哲學博士 東郷昌武先生序
日本女子大學教授 マスターオヴアーツ 村田勤先生著 (九月上旬發賣)

クリミヤの天使 ナイチンゲール

▲洋裝四六判寫眞肖像數葉入▲定價五十錢郵税八錢▼

孃は十九世紀の英國が產み出した最も美しい又最も神々しい女性である孃は柔和謙遜な女丈夫である己れを棄てゝ人を救ふた愛の化身である無數の軍人等に天使と崇められた聖者である婦人の理想とし模範とするに最も適した人である孃の如きは啻に英國人ばかりの誇りでなく實に天下女性の誇りである否人類の名譽である此本は孃の爲人と事業を少年少女にも分り易いやうに平明な口語體で書いてある讀む價値はあるかないかは讀んだ御方に聞いて下さい

文學士 吹田蘆風先生譯 (九月上旬發賣)

悲劇 マリア・マグダレナ

原書はイブセンの深刻とハウプトマンの詩趣とを兼有せる稀代の戯曲家ヘッベルの傑作なり譯筆謹嚴卷頭に原作者の評傳及び獨逸世話物の二文を揭ぐ

▲定價六十錢 郵税八錢▼

發兌 東京京橋區尾張町二丁目 (振替東京五五參番) 警醒社書店

婦女界

■九月號要目■

◎大日本と女子の覺悟…下田次郎
▲我子を立派に育てたい爲の苦心…金子男夫人
▲嫌いな妻が私を如斯く助けたり…酒井孝三郎
▲下婢の操縱に就いての私の理想…岡崎氏夫人

◎砲煙彈雨の裡に過した私の娘時代
▲子供の叱り方褒め方は斯くせよ…岸邊福雄
▲女子秋の服裝は如何にすべきか…久保田米齋
▲如斯き簡單なる婦人の內職あり…福島せん子

◎淀君は如何なる女か 辻文學博士
▲東京市に於ける中流人士の生活…太田千代子
▲如何にして鼻を高くし得べきか…北原十三男

▼婦人は斯くして知らず識らず自分の顔を醜くしつゝあり…富士川ドクトル
▼今日の女學生の手紙に現はれたる欠點…文學士鹽井雨江
▼女子の晩婚は斯の如き不幸を來す…狩野病院長
▼二圓で世帯を持ち二十年間共稼した苦闘
▼新婚の夢に憧憬れて悲境に陷りし若き妻告白

▲秋の七草と文藝
▲京都の女
▲新學期
▲鹽原ゆき
▲茶を薦むる作法
▲眞球の話
▲九月の園藝
▲九月の料理
▲秋の日本室裝飾
▲西洋菓子製法
▲秋の化粧法
▲一週間の獻立
▲衣服の始末洗濯

一冊十五錢 郵稅一錢五厘
六冊九十錢

東京神田表神保町 同文館 振替東京一三五一番

第貳卷第九號

涙なきの人生は淺薄也、苦痛なきの人生や豐富ならず。涙や苦痛やもと吾人の望んで取るべきものにはあらず。然れども人生往々苦痛と涙とによりて其内容を豐富にせらる。我儕の神は常に笑ひの神にはあらざりき。十字架上に鮮血を流されたる神也。我儕の宗教は常に悦樂の宗教にあらず、涙と血と汗とを以て神の國を建設するの宗教也。涙を飲み苦痛と戰ひ、悲哀に打ち勝ちて始めて吾人の生活は深くせられ、高くせられ、廣くせらるゝ也。(斷想錄)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『婦人の理想』を讀む

安井哲

批評的に書物を讀む事は、最も有益でありますけれども、淺學者が大家の著書を評論すると云ふ事は、誠にをこがましい事であります。私は此度安部磯雄氏の新著『婦人の理想』を讀んで、『理想の人』に於けると同樣、多大の敎訓と興味とを得ましたので、廣く同胞の婦人方に御紹介申し度いと思つて、茲に一言致しますが、決して批評を試むるのでない事を御斷り申して置きます。

此書の目的は、著者が其自序に明言されてある如く、「啻に婦人の自覺を喚起することに勉むるのみでなく、婦人に對する男子の思想を根本的に改むべきことを說いて居る」のであります。吾等日本婦人は、古の「三從の敎」に依つて、常に男子に服從する事を學び、之れを以て婦人最高の德と考へられて居るのみならず、女子敎育に對する理想方針等、一切男子の頭腦に依つて定められた者でありますから、吾國の女子は男子の思想の如くに形作らるゝ事は自然であります。而もかく男子に依つて形作られた女子は、又常に男子に依つて批難せられつゝある者であります。其故に吾々は時として、隨分無責任な議論や批評を男子から承る事もありますが、控へ目に育つた吾々日本婦人は、歐米婦人の如く、婦人問題に就いて、公然と男子と云ひ爭ふ事を敢て致しません。又時として、婦人としての要求を言はんとし、書かんとしても、婦人全體永遠の幸福を圖るが爲めに、成るべく氣長に、男子と調和的の行動をなさうとし、言はんとし、書かんとする所の僅に二分一を表はす場合が多くあります。此意味から、私は安部氏が女子に代つて「女子に對する男子の思想」を高められん事を勸められたるに對して、多大の感謝を表する者であります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

かくいへばとて、吾等は安部氏を後援に、これから婦人の權利擴張の大活動を社會に演出しやうとする者ではありません吾等は最愼重なる態度に於て、我々の位置を自覺し、着實に向上前進して、未來に於ける吾國婦人の幸福の爲めに、準備を爲さんとする者であります。併吾國婦人の進歩は婦人のみに依つて爲し得べき者でなく、必ず吾々に同情し、吾等を誘導し、又吾等の後援をなす所の男子の力を藉らねばなりません。故に吾等の自覺には、婦人に對する男子の思想の進歩を伴はねばなりませんけれども、此要求は女子の口より出づるよりも、却つて男子自身に依つて稱へられる方が、最有力で且穩當であります。之れ卽吾々が著者に感謝の意を表する事の深い所以であります。

著者は先『敎育の理想』に於て、「敎育の目的は人間として人類を敎育するに在り」とし、「吾人男女は何れも人間であるから敎育を受くる必要がある」と云はれ、「嫁入仕度は五年乃至十年を經れば大抵消滅してしまうのであるけれども、敎育は一生涯を照す所の光明である」とて、婦人が敎育を受ける眞意を明にさられたのは、特に新しい說でなくとも、不變の眞理であります。

第二章「生前の敎育」は最有益な議論であります。氏は生兒に及ぼす母親の影響を論じて、「資產の如きは父親一人の力にて之れを增殖し、且之れを子女に遺すことも出來るが、吾人の能力に至りては、決して父親一人の遺產ではない、母親も其遺產に對しては、慥かに二分の一の責任を負はねばならぬのである」といはれ、更に「子女の敎育は決して誕生後に始まる者ではない、母の胎內に在る時にも既に大切なる敎育が行はれて居る」とは、一般誰でも稱する所でありますが、氏は尙進んで、「否子女の未だ胎內に宿らざる前に於て、敎育は既に始つて居るのである。今日の娘が敎育を受けつゝあるは、彼自身の敎育であると共に、亦彼の子孫の敎育であることを記憶せねばならぬ」と云つて居られる。此意味さへ能く解れば年若い女子は皆眞面目に修學を致しませうし、父兄も亦女子敎育の必要を明に認める筈であります。

吾々の欠點は、遠い所に目的を置かず、何事も目の前の小さな事のみを見て議論し、計畫し、之れが將來に如何なる幸不幸を產み出すかといふ事に深く注意せぬ、所謂遠慮のない生活狀態をなす事であります。殊に結婚に對する靑年男女の思想などは、多くは淺薄で、結婚當時の一時的快樂を想像し、永遠の問題たるべき、子女の健康能力等には思ひ及ぼす事が少いのであります。之れが爲めに、夫婦互に其撰擇を輕々しくするの弊があるのは、誠に悲しむべき事であります。世の親たる者は、宜しく其愛する娘の爲めに、此章を熟讀せ

らるべきであります。

第三章は吾等婦人の特に注意して讀むべき章であります。氏は『男子の優劣』を論じて、女子は體力智力は勿論、道德に於ても、一般に男女に劣つて居るのが事實であるが、之れを遺傳と境遇とが然らしめたのである、故に單に劣者として婦人を嘲笑するのは不親切であると同情し、婦人に能力練磨の機會を與へて活動せしむれば、「十代を經る前には男子と同樣の能力を發揮するに相違ない」と希望を吾等に與へられました。

吾々は一般に他人を許する根據が甚薄弱であります。其故に時には自ら耻づる程他人に重要視せらるゝ事があり、又單に表面の觀察のみで、勝手次第に不利の解釋をせらるゝ事もあります。恐らく吾等程「偉い人」に早く爲り、又「惡い人」にも早く爲る者はありますまい。併吾々は徒に他人を彼是批評する事を止めて、互に同情し合ひ、補助し合はねばなりません況して前進者、有識者は、後進者や淺學の者を親切に誘導せらるゝのは其義務で、無責任に輕侮嘲弄するのは、徒らに他人を自暴自棄に陷らしむるのみでなく、論者自身の人格にも大なる損傷を與ふる者であります。從來女子を論じた者の中には、かゝる弊に陷つた者が多く、吾々は愼んで其敎訓を受けんと希望するに係はらず、却つて其輕蔑不禮なる態度に、不愉快を感じて、故さらに目を閉ぢ、耳を掩ふ事もないではありませんでした。著者が茲に注意せられて、女子を全然劣者と斷じたるに係はらず、能く公平に其原因を究め、劣者たる吾等に希望の光明を與へられたのは、全く其人格の致す所であると感ぜざるを得ません。殊に社會道德の維持者を以て吾等婦人に自ら許したる私は、能力發達の原則を根據として、著者が終に道德に於てすら、吾等女子を劣等と斷定せられたに對して、無上の遺憾を感じたるに關はらず、著者の眞意を誤解せず、益奮勵して、自信を實現したしといふ希望を一層高め得たのは、之亦氏に謝する次第であります。

第四章『婦人の現地位』に於て、氏は婦人が結婚する理由を論じ、婦人が獨立の生活を爲し能はざる結果として、自然に蒙る種々の抑壓侮辱等の實例を擧げて、大に憤慨されて居るのは、吾等の謹で感謝する所であります。吾等婦人は未婚と既婚とを論ぜず、最眞面目な心狀を以て之れを讀み、最思慮ある方法に依つて、男女相助けて、一家全體社會一般の幸福を眞に增進すべき道を講ぜねばなりません、淺學なる私は、未だ此章を評論するの位置に居らぬ事を自認して、至れり盡せる著者の高見を謹聽するに止めて置きます。

第五章に於ては、「服從の結果として、吾國婦人の主なる欠點を卑屈、嫉妬、虚榮とし、各其依つて來たりし所を明示せら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れたのみならず、其他方面に於て、彼等が最忍耐犧牲の精神に富んで居る事を認められて居ます。卑屈、嫉妬、虚榮等は男女に係はらず、廣く人に接せざる者、多くの境遇に出逢はざる者、見識の高からざる者には、自然に生ずる心の傾であります。曾て某東洋の愛國家が、「吾國を滅ぼさん者は國人互の嫉妬なり」と歎息せられたのを親しく聽きましたが、非文明の者程、自己を中心とし、私情を以て公事を議するの傾向のあるのは止を得ぬ事であります。吾々の如く常に小天地に籠居して居る淺學の者は、互に相助け相警戒して、獨り他人に迷惑を懸けぬのみならず、我情を以て公事を害せぬ樣に注意すべきであります。

第六章は『婦人と宗敎』で、此處には宗敎的修養と道德的修養とを、運動に比して面白く說明せられてあるのみならず、「宗敎の眞髓」を說いて、宗敎家互の反目を批難し、博愛仁慈を以て宗敎の中心點とし、諸德の基礎とせられたのは宗敎の差違を論せず、何人でも同意すべき公平な議論であります、狹量なる吾等は、他人の宗敎に對しても兎角無責任なる批評を下し、他人の信仰の深淺を云々して、自己一人を聖人視する者が少くありません。此章はかゝる人々の特に一讀すべき者であります。

第七章に至り、著者は歐米諸國より實例を引き來つて、「婦人の知育」を論じ、婦人の高等敎育に關する吾國論者の反對說を擧げて、一々之れに辯解を試みられたのは、最興味であるのみでなく、「能力の鍛錬」を以て「智識の貯蓄」よりも一層重要な學問の目的とせられたのは至當であります。高尚なる敎育に依つて、各方面から能力の鍛錬を受けた者は、能く「バランス」の出來て居る頭腦を有つて居ますから、決して突飛な考を出す筈もなく、又高慢になる筈もないのでありますけれど、多くの男子は直に敎育ある女子を敵視して、種々の批難を下さるゝのみか、未だ充分に高等の敎育を施して、眞正の結果を見定めぬ前に、彼是批評せらるゝのは、實に遺憾に堪へぬ次第であります。私は吾々婦人が實着なる態度に於て、其實力を養ひ、夫の爲め、子供の爲め、延いては社會の爲めに、有用な人物とならんと心懸くるのは、勿論必要でありますが我國女子の父たり、兄弟たり、又は夫たる男子の、今少しく同情を以て、女子に積極的補助を與へられん事を切望する者であります。

氏は之れより進んで「婦人の體格美」を說き、「婦人の職業」に及ぼし、遂に「婦人と政治」を論じて卷を終られました。盡く有益の文字のみでありますが、紙數に限りがありますから茲に一々御紹介する事が出來ません。併是等に對する氏の主張は、大抵讀者の想像せらるゝ所でありませう。

要するに、著者は其結論に於て示された如く、婦人をして、人妻として高尙な敎育を與へねばならず、而して之れは獨り女子の利益のみでなく、男子の爲めにも亦大なる利益である事を主張せられ、其子女に敎育に關しても、又は一家の內務大臣としての職責を全うせんとするにも、或は夫の趣味を解して眞の同情者たり慰藉者たらんとするにも、高等敎育が最必要なる事を熱心に說かれて居ます。併單純な理想家でない著者は、最後に此理想を現實するに就ての注意を深切に述べられ「若し婦人が急遽に其理想に達せんと試むるが如きならば、却つて意外の失敗を來す事があるかも知れない。………殊に現在の境遇が餘り理想に遠ざかつて居るのを見て、人生を悲觀するが如きは、婦人の最愼まねばならぬ所である。………非觀や不平は決して吾人を奮起せしむるものでないから、寧自己の力を以て自己の境遇を改善するの覺悟がなくてはならぬ」と警戒せられたのは、誠に親切な忠告であります吾國婦人も敎育上種々の變遷に逢ひまして、幾分か學んだ處もありますから、眞に向上發展を希望して居ると同時に、現地位に安んじつゝ、實着に一步々々と前進せんとの覺悟のない者でもありません。加之犧牲的なる吾等日本婦人は、獨り自己發展の爲めにのみ、かく考へるのでなく、吾等に依つて敎育せらるゝ子女の幸福の爲めと、又間接には未來の吾國婦人の幸福の爲めに、吾等自身の利益以外に、奮闘努力せんとしつゝあるのであります。

うつくしきなさけ

本鄕敎會に妻君に死なれて十歲許りになる男兒を手一つに育てゝ居る某氏といふのがある。或る日曜の禮拜の時、某氏の直ぐ前の椅子に一人の紳士が座つて居つた。名も知らぬ人であるが、同じ位置で二三度落ち合つた事を不思議に感じて、つくづく其人の樣子を見ると何となしに同じ悲しみに居る人ではないかと思はれたので、語り合つて見たいとの念が禁ずる事が出來なかつたが、一面識もない遠慮に氣が後れ、せめては其人の住居を尋ねて改めて訪問しやうと、床しさの餘りソツト其人の後をつけた。其人は眞砂町を出て春木町から、とあるお寺に這入つたので、お寺にでも住まはれるかと、尙もついて行くと石碑立ち竝ぶ墓地へと進んで、一基の塔の下に跪して暫らくは顏もあげられぬ。何しろ此には譯がある事と、某氏は其人の立ち上るのを待つて、自ら進み出て姓名を告げて一部始終を語つた。其人は一時驚いたやうであつたが、實は之は亡妻の石碑で、いとしの兒三人を此世に殘して逝いた以來、三十八年から今日迄日曜日には必ず此處に來て妻の墓を拂ふ事にし、未だ一同も缺かした事がないとの話であつた。某氏もそゞろに感じておのれも亦同じ運命に居る身なるを告げ、再會を期して分れたといふ事である。五年の月日を每日曜の墓まゐり、なりとは美しきなつかしき情である。私は淚をもて此話を聞いた。（楠男生）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

ヤコブ、ヨハネの母

海老名彈正

昔より聖賢と呼ばるゝ人は數あるが、男の弟子の外に女の弟子を多く持つたと云はるゝ者は極めて尠い。東洋の大聖人と崇められて居つた孔夫子の如きも男の弟子を多く持つて居られた事は傳へられてあるが、女の弟子はどの位あつたか、知る事が出來ない。彼の名高い論語、仁齋は宇宙第一の書と褒めたのであるが、あの論語の中にも女弟子と云ふものは見當らない。啻に女が孔子の弟子に尠い計りでなく、貴い地位を與へられて居らぬ事が知れる。若し女弟子が側にあつたなら「女子と小人とは近づけ難し」と云ふやうな言葉は發せられなかつたと思ふ。流石釋尊には女弟子が出來た。彼は妻を濟度する事にも骨を折られた。叔母君をも立派な方とした。けれども其女と云ふ中には一種云ふ可らざる悲哀の響を傳へて居る。翻つて基督を見ると女に名高い弟子が澤山ある。基督の言行錄を見ると、如何に女が其間に花を咲かせて居るか分らぬ。乾燥無味と思はる系圖にすら女子の名がある、況んや其母マリヤの所に至ると光景が一變して家庭の美しい所が現はれて來る。年若き娘が新なる女子の實驗を初むる時の有樣が嚴にして、且つ美はしく書かれて居る。殊に誕生の一節の如きは記事其儘が詩である。それからエルサレムの宮詣にアンナと云ふ女豫言者に出遭ふ事から、更に進んで傳道、それから十字架の最後に至る迄、女子は基督傳中の飾りとなつて居る。ペテロの母、マルタ、マリヤ、マグダラのマリヤ、シロペニケの女色々の者が出て來る。恰小說に女の出ないものは殆んどないと同じである、ピットの書いた小說には女が出て居らない。彼は獨身者で英國を以て妻としたのである。其頭には女が往來せなかつたのであらう。けれどもそれは例外である。如何なる威めしい男子を書いても、中には屹度淑女がある。その如く、世界に類稀なる猶太の聖人が出て來られた時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に其周圍にあるものは獨り男子ばかりでなく、女子もある。これは自分の身に近い事であるが、横井小楠の弟子には女があつた。名高い御母さん達がいくらも集つて居た。安場男爵の母の如き、熊本で立憲黨の長をして居た山田と云ふ人の母の如き、嘉悅孝子氏の祖母の如き、何れも熱心な小楠崇拜であつた。現存して居る人では德富の老母の如き其一人である。小楠と云ふと何もかも忘れて其側に天下國家の議論を聞いたものである。而して小さい子を伴ふ計りでなく相當の年輩になる子息を携れて行くものもあつた。中には「又先生早く志を得て下され」と云つてせがむ者もあつたと云ふ。啻に講義を聞いた計りでなく、打ち解けて話をした。時あつては酒を飲む間に立ち混つて居た事もある。而して宴酣にして政談でもやる者があると、それを喜んで聞くと云ふ風であつた。今猶生き殘つて居る小楠の下婢の如きは今年八十四歳の高齢であるが、遭へば昔を語つて、小楠の弟子を以て任じて居る。

△ユダヤの婦人

基督の弟子も亦然う云ふ譯で婦人達も非常なる熱心を以て從つたのである、彼等は啻に敎を聽いた計りでなく志のあつた人々である。基督の人格に引きつけられたには相違ないがそれと同時に偉大なる目的を以て集つた事を認めねばならぬその目的とは何か、神の國を立てる事である。神の口と云へば今では一個の宗敎上の意義として見るが、其當時は然うでない。千九百年前の猶太には政治と宗敎の區別はなかつた。神の國とは外ではない、猶太人の理想的國家の故である。かゝる國家を建設する大命は基督にありと信せられたのであるから、志ある者の集つたのは無理はない。婦人は家庭を守ればよい。國家などとは婦人に似合はぬと云ふかも知れぬ。けれどもユダヤの婦人は變つて居る。希臘などでは妻は所謂奧樣で、敢て外界と關係せない。時の政治家、學者などゝ交はつたのは寧ろ貞節の無い女である。所が猶太は然うでない。猶太では貞節無き者は斷じて與みせられなかつた。それなら奥樣として閉ぢ込められたかと云ふと然うでもない。隨分相當の婦人で男子と立ち混つて居る。彼等は單に基督より家庭の話を聞く爲に集つたのでない。如何にして神の國を建つるか、イエスは如何なる人か。かゝる大事に與らんが爲である。

△子故の願

イエスは容易にメシヤたるの自覺を語り給はなかつた。が山の上の變貌があつて以來、弟子達のエス觀と云ふものはすつかり變つた。初めには敎師として近づき、次には豫言者、最後にはメシヤと見るに至つた。既にメシヤと見る。其威嚴

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は盛なるものである。これが我々の王であるか。これが神の子であるか。ダビデ、ソロモンも及ばぬと云ふメシヤなりと見た時に弟子の嬉しさはどれ程であつたらう。恐らく全身は希望に充されたに違ひない。けれどもイエスは弟子を酔はしめ給ふが目的でない。その前には難關がある。それを切り抜ける事は覺束ない。九死一生である。所が弟子にはそれが能く分らない。志を得た曉には自分達は何になるかと考へて居る。云はゞ内閣の椅子問題である。何時の世にも人情は如斯ものである。イエスが彼等を呼んで我が云ふ神の國は然う云ふものではない、赤子の如くならなければならぬと懇々説諭されたが、彼等には未だ分らない。兎角してエルサレムに上る事となる。皆非常な勢である。その中には女も居る。そこが面白い。其女達の中にヤコブ、ヨハネの母が居たが彼女は二人の子をつれてイエスの側に進んで行つた。彼女は基督に對して何を云はんとするか。思ふに彼は自分が怎うしたいと云ふ野心は無つたのであらう。けれども子を思ふ時に云はざるを得ぬものがあつたのであらう。基督の前に出る體度を見ると唯先生じやない。どうしても君主に對する臣下である。若しヤコブ、ヨハネよりしてイエスに申し上げたら、御前達は何を云ふかと御叱りがあつたかも知れぬ。けれども述ぶる者は二子の母である。イエスもにこやかに、何か欲しいかと、御尋ねになつた。はい、貴君が志を得させられました時の御願で御座います。私共の子供も手足となつて忠義を盡して居りますが目的を遂げさせられし曉には一人は貴君樣の右、一人は左、御座近く御置き下さいまして神の國を治むる者として下さいますやうと願つた。

△我が杯

その時イエスは何と云はれたか。汝等我が飲まんとする杯を受け得るか。これである。此言葉は今の我々には一寸分り難い。けれども弟子には直に解し得た。イエスの此時の杯は祝のじやない。誠に苦いものである。云ふ所のバプテスマも又水じやない。血の洗禮である。一言にして云へば光榮を求めし者に向つて、御前達は命を棄てるかと問ふたのである。これを聞かれた時ヤコブ、ヨハネの母は怎んな心持がしたか。察するに餘りある。二人は答へた。それは受けますと。若し二人の母が氣屈して自分の子は可愛い、殺したくはない、と云ふ親煩惱を出したなら、ヤコブ、ヨハネは斷乎たる答は出來ない。子として大事を決するに躊躇するのは母である。母が弱音を吹くと、實に困る。秀吉でも母の一言で朝鮮行を見合せる事になつた。若し此時ヤコブ、ヨハネの母が虚榮心に驅られて、左右の大臣になる事ばかり考へて居たなら、此痛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

棒は受け切れぬ、イエスの要求は峻嚴である。此二人を殺す事は出事るか。犠牲となれるかと云ふのである。功名心なら實に危い。此母にも功名心はあつたらう。けれども彼は神を信じた。基督を信じた。獨り基督のときめき給ふ時ばかり從つたのではない。フエニキヤに逃れ給ふ時にも、ヘルモンに至り給ふ時にも、御足の跡を慕ひ奉つたのである。ヤコブ、ヨハネは雷の子と云はれた程の人、意氣の盛なるは固よりである。母も又此一言で覺悟の前であると云ふ意氣込を示したと思ふ。そこで「能くすべし」此の快き答を得たのである。

△虚榮心は十字架に

基督重ねて云ふ。誠に爾等は我杯を飲み、また我うくるバプテスマを受く可し。然ど我が左右に座ることは我が賜ふ可きにあらず。唯我父に備へられたる者は賜らる可し。これは貰い所である、兎角我々は結果を見たがる。けれども我々に結果の見えるものじやない。我々は爲す可きを成して安ずる所がなければならぬ。多くの婦人の虚榮心は憐むべきである。此母は虚榮心ではない。けれども人生の見方が淺かつた故に母は胸を突き通る如く感じた。而して二人の子は遂に死を免れなかつた。かゝる場合に當つて行く道が二つある。自分はひどい目に遭はされた。飛んだ者に誑されたと感じて失

望の餘り自暴自棄になるか、或は自己の惡い所を悟つて魂を入れかへるか。これである。ヤコブ、ヨハネ及其母は幸ひにして、眞の清い正しい一面を悟つて美しい愛に入つた。さればイエスの死を弔はんとした人の中にはヤコブ、ヨハネの母もハ—　らくイエスの復生を見る事も出來たと思ふ。ヤコブ、ヨハネがペテロと相携さへて神の國の建設に從事したのは此母があつて心を引かされぬ樣力を添へた爲であると思ふ。即ちヤコブ、ヨハネの母はイエスの母マリヤと共に初代クリスチヤンの模範たりしものである。人生に於て幸なる事は子が進まんとする大義の上に母の同情する事である。ヤコブ、ヨハネの母にして、若し人の子は人を使ふ爲にあらず使はるゝ爲なりと云ふ意義が分らなかつたならば怎うであるか。人の子と云ふは唯普通の意味じやない。雲に乘つて榮光の君主である。ヘルモン山上に仰ぎ見し貴い御姿である。それが使ふ爲に來たのではない。使はるゝ爲であると云ふは何たる事であるか。殊にヤコブ、ヨハネの母が其子の爲に願ひし基督の左右の座とは何か。聖書の傳ふる所に依ればイエスの十字架に就けらるゝ時盜賊が一人は右、一人は左に懸けられたとある。その時ヤコブヨハネの母は何と思ふたらうか。彼は遙にそれを見たのである。自分は大變な事を願つた。自分の子が、と思つた其座には盜賊が刺されて居る。彼處であつたか、と思つた

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時自己の虚榮心は十字架にかけられた如く感じたであらう。嘗つて我々が基督教に入つた時の事。家族も同胞も皆迫害された、其時同志の一人が自分だけ迫害されるなら忍び得る。けれどもこれが爲に己の母迄苦めらるゝのは忍べない。察して呉れと云つて泣いて訴へた事を知つて居る。けれども迫害が終つた時誰か一番先クリスチャンになつたかと云ふと母である。後年或人が學説が變り信仰の薄らいだ時告白した。母に濟まないと。婦人には信じて變らぬ特性がある。取り分け人の母として貴き愛を持つて居る。ヤコブ、ヨハネの母の如き其子の殺さるゝ時恨んだであらうか。否キリストのバプテスマを受くる力の與へられた事を感謝したといふ。如斯き母は一家の彩華たるのみならず、天國の光榮である。

歐米見聞記

夏の歐米　其の二

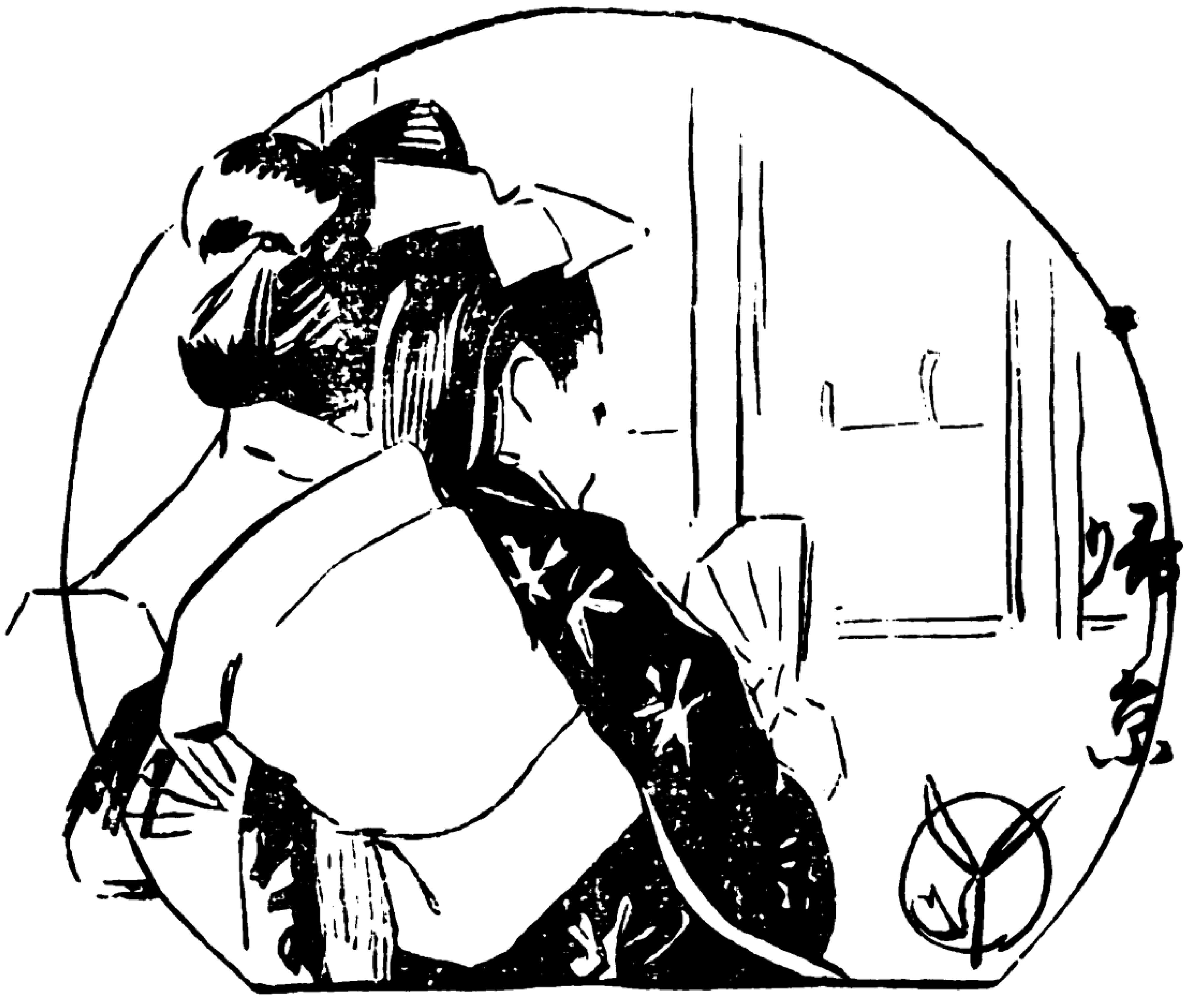
本田増次郎

◎まだ四年分殘つて居る。早く夏のお話しを片づけねば秋になつてしまう。

◎明治三十九年夏は全くニユージャージイ州の大西洋市(アトランチック、シテイ)で過ごした。その名の示す如く大西洋上の避暑避寒地で、波濤を隔てゝ西班牙、葡萄牙と差向ひになつて居る。前回に述べたニユーポートが夏場の女王、交際の中心なら、大西洋市は米國第一、否世界無比の大仕掛な處である。型は和蘭のスケーヴニンゲンに取つて、大さは天下及ぶものなし。先づ海岸に長さ二里餘、幅六七間の板道(ボート、ウオーク)があつて、市街に向つた方には一面賣店がある。處々に旅館寄席なども交つて居る。海の方の側には店を許さず、唯涼し小屋(パヴイリオン)が點々して居る。又一町以上も海中に突き出た棧橋(ピーヤ)が五六ケ所にあつて、音樂、觀せ物、各種の遊戯を樂しみつゝ涼むやうになつて居る。土地の常住人口は五萬内外であるが、夏の盛りになると二三十萬に殖える。全市客商賣で生活してるわけになる。ニユーヨーク、フイラデルフイヤ、ピッツバーグ（カーネギー製鐵所で有

名な)、ワシントンなどから、雲霞の如くゾロ〳〵と押し寄せて來る。晝は海水浴、舟遊び、夕方から夜にかけては板道の上を右往左往に散歩する。回轉椅子に乗つて押されて涼む、商店をひやかす、涼み小屋に腰打ちかけて人波の見物をする、大洋に月の漂ふのを眺める。

◎後ろは沼や平地ばかりで山を控えて居ないから、海と店との外には何も觀るものがない。そこで暇のあるにまかせて緩りとクリスマスの贈物などを買つて行く、一年中の贈答を計畫する餘裕がある。歐洲諸國、東洋の邦々、アフリカ、南洋の産物まで賣つて居る、まるで世界博覽會の賣店見たやうである。日本人の出して居る店も十餘軒あつて、土地の人と結婚したり、交際したり、排斥どころか大持てに成功してるのが段々ある。其の成功者の一人近藤氏はキリスト信徒で、親切に日本人の世話をされる。予の『肉彈』英譯をしたのは此夏の事で、毎々近藤氏夫妻の處へ出かけて日本食を御馳走になつた



今の近藤夫人は永くフエリス女學校に敎鞭を執つた方である。暑中は餘り雜沓するので上流の人は餘り行かぬが、其の代り春の復活祭の休暇には、新流行の衣裳を着飾つた婦人が出るわ〳〵。それで板道の上をゾロ〳〵と練りあるくその幾萬の美しいのを見に行く人も澤山ある。暑中雜沓の盛りと雖も取締りは感心に行屆いて居て、第一板道に沿ふた處では一切酒を賣らせず、市中の酒店も夜の十二時限り締めさせる。如何はしい人物が板道に出沒するやうな事もない。

◎その次の夏は全く氣を變へて三ケ月間山の中で靜養した。處はニューヨーク市から二百マイル北の方、ハドソン大河の西にあるキヤッキル連山で、リツプ、ヴアン、キンクル（米國の浦島太郎）で日本に能く知られて居る。此連山の各所に何十といふ程避暑地のある中で、予の行つたのはオンテオラといふ二八三〇呎の山頂であつた。此處は公開の場所でなく、有志者の組織したクラブの所有地

で、會員にならねば地面を買ひ家を建てる事が出來ぬ。又クラブ附屬の宿屋が一軒あるが、これも會員の紹介がなくては泊らせぬ。これは猶太人の商人が非常に別莊地を買込んで出しやばる、丁度日本で風景の好い涼しい處を段々西洋人に占領せられるといふやうなのを憤慨して、一種の繩張りをしたのである。前に話した大西洋市などでも、或るホテルでは猶太人を斷る。勿論人種が違ふからと明言してはゐない、部屋が皆閉がつて居ましてお生憎と來る。これは古來の人種的宗致的憎惡も殘つて居るからであらうが、主なる理由は彼等が無作法で普通の禮法を守らぬから、外の客が厭がつて來ぬやうになるからといふのである。如何に平等主義の米國でも斯の通りだ。南部諸州では黑人用の汽車、電車まで別になつて居る。何處へ往つても黑人は白人と同じ料理屋、ホテル、酒店、斷髮床、芝居などに行かれぬ。支那人を入れぬ處も段々ある。そこへ行くと日本人は威張つたもので、唯西部カリフオーニヤ地方で勞働者を排斥するばかり。尤も東の方でも、或る日本人の妻でしかもキリスト信者であつた人が死んだ時、遺志の墓地に葬らうとした處が地所を賣つてくれぬ。白人以外にはどうしても賣らぬと斷はつた處がある。これは墓地も一種の株式營業で、異色人種と枕を並べて眠るのだと知れたら株式が下がるからの事だ。イヤハヤ、人道も博愛も商賣には叶はぬ。

◎さてオンテオラ部落は二十年ばかり前に開いたもので、今では百軒近く別莊が出來て居る。クラブ員には大金持ちは少なく、有名な著者、美術家、音樂家、醫師、俳優などが這入つて居る。マーク、トウエーンも以前は能く茲へ來たとの事だ。予の泊つたのは熊狐亭(ベーヤ、エンド、フォックス、イン)といふクラブのホテルで、表にはベーヤ君がフォックス夫人の手を取つて、月下に散歩してる油繪の看板が掲げてある。旅亭も別莊も總じて簡易、文雅を主としたもので、熊狐亭も堀つ建式の木造で、敷物も煉瓦も用ひてない。又クラブの規則として夜會服を用ひず、男子は眞紅の短い上衣を代用する事になつて居る。圖書館も會堂もある、テニス、ゴルフなども出來る、一里足らず山を下れば汽車に乘れる。

◎予の茲へ來たのはニユーヨークで懸つた醫師の紹介で、其の治療を受けるのが目的であつた。此先生の發明がまた面白い思付きで、患者を四角なガラス筐へ入れて戸を締めて、それからポンプで中の空氣を減じ稀薄にして置いて、側面の小さい穴から通じてるゴム管を患者が口に啣へて、外部から濃厚な空氣を吸ひ込んで胸廓を擴げ、血液の循環を盛んにするのである。呼吸機、循環系などの不調から來た病氣や衰弱には藥を一品も用ひないで大に効能があるやうだ。この治療を

健康者に用ひれば、市中で劇務を執つて居る者でも、山中や海邊に行つたと同じ効力があるとの說だ。

◎此避暑地では色々專門の名士才媛と交を結んだが、珍らしい仕事をしてる人にも會つた。一人はトランプの先生で、交際社會へ出る人たちに、流行のブリッヂなどを敎へるのである。夏休みの間に稽古して置いて、冬の交際期に腕前を振ふなど大に考へたものだ。まづ日本で云へば圍碁の師匠見たやうなものだらうが、予の會つたのは頗る意氣な老婦人であつた。それからも一人は博物の先生でこれも婦人、一時間何程と謝金をきめて弟子をつれて山野を跋涉しつゝ見當る鳥獸草木の名や性質や鑑識を敎へるのである。これは日本にもほしいと思つた。都に籠つて居る人々は老幼男女の別なく、田舍へ避暑中を利用して、半修學半運動に時間を費したら、坐りこんで琴三絃や碁將棋などに耽るより有益であらう。それからリップ、ヴアン、キンクルの本者が住んで居たと云はるゝ村で、松林の間を伐り攘つて腰掛けをしつらへ、生きた松の木から電燈幾百をつるし、小高い山腹を舞臺としてする野天の芝居を見た。藝題は素よりヴアン、キンクルで、スナイダーといふ犬も本物であつたが、丁度自分の番が廻つて來る前に犬の役者が散歩に行つて見當らず、十分ばかり待つて漸く無事に出演した。一晩だけの興行で四五千人も觀客があつたやうだ。

ハネてから又四頭立の馬車で山道三里ばかりを宿へ歸つたのが午前二時半。

◎四十一年五月の末にカナダを通つて英國へ渡つた。合衆國の南部では五月から夏になる。日本や支那にある梅雨といふものがないから、北部でも六月は既に夏である。カナダのモンドリオールといふて、佛人の方が多くて一種の佛語の方が多く行はれて居る處から乘船したのであるが、北海道の北部に相當する緯度にありながら、五月の末でも、日中は頗る暑かつた。これが大陸的氣候といふものか。それからセントローレンスの大河を北東へ向けて下り、クヱベックの古戰場を回顧しつゝ、ニニーフアンドランドとノヴア、スコシャの間を通つて大洋に出た。ニユーフアンドランドの沖は濃霧と氷塊とで有名な處、二日間程は汽笛を鳴らすやら進航を中止するやら、一つ大氷山に突き當つたら全船粉微塵になるといふので頗る心配した乘客もあつた。兎も角氷塊の爲めに航路が北へ進むのとで、寒いほど涼しかつたのが仕合せで、それから愛蘭土の西へ近づくと段々暖かくなつて來た。船は愛蘭土と蘇格蘭土の出鼻との間を經て、南下してリヴアプール港へ這入つた。此處で舊友の家に四五日逗留して、世界の大都ロンドンの人となる前用意をしたのである。六月の上旬でも米國と打つて變つて甚だ涼しい、加ふるに冬でなくてはストーヴ

を焚かぬが英國の常習で、寒中室内を七十度以上にして置く米國に慣れたものは、當分涼し過ぎて困るのである。

◎英國は先づ日米と比較して夏も冬もない國と云つて宜しい。緯度は高い、ロンドンが日本領の樺太よりも北になる。それで冬がないといふのは不思議であるが、これは全くメキシコ灣の方から來る暖流の爲めである。此暖流が寒さを融かして有名なロンドンの濃霧となり、又年中靑々とした草が地面を蔽ふ事になる。地面を氷らす程の寒さがなく、草を燒き枯すやうな暑さがないので、草の爲めにも人間の爲めにも、英國の氣候は春と秋との循環である。愛蘭土はもつと直接に暖流を受けてるせいか、ロンドンより北によつて居ながら草木の緑は一層濃厚で、緑（エメラルド）の島とは穿つた名だと思ふた。蘇國などは別として、ロンドン邊の雪は日本の春雪のやうで、深くも降らぬが忽ち融けてしまう。ニューヨークの雪は頗る澤山で、一尺二尺と積もる事が度々ある。しかし空氣が乾燥して居るから、日本のやうに骨身にしみるやうな寒さは感じない。又容易に雪が解けぬから、ポンプで下水管へ流し込んだり、荷馬車で河へ運んだりせねばならぬ。一雪毎に市は何十萬ドルと負擔が殖える代り、貧乏人は臨時の儲け口があつて喜ぶ。

◎オットこれは冬の話しになつてしまつた。英國の東と南の海岸、ウエールスの南、愛蘭土などの海水浴地を見たが別に記すべき事もない。英國南部の湖水地方即ち湖水詩人を出した山水明媚の境を見たが、毎夏ケシック湖畔で開く信仰復興的の宗教大會の外珍らしい事もなかつた。流石は緯度が高いだけに、輕井澤邊と同じやうに、日中でも空氣が何となく輕く涼しい。本當の夏の眺めは蘇國の山水であらうが、まだ見ぬから話しが出來ぬ。

◎巴里と伯林の夏もざつと觀たが、これ亦記すべき程の事がない。南歐の海岸や瑞西の山中の事でないと面白くあるまい。唯一つ伯林で珍しいと思つたのは氷宮(アイス、パラスト)で、周圍大廣間一面を氷にして其上で幾百の男女が滑つて遊ぶ、周圍の少し小高い處と二階とには椅子テーブルが澤山あつてビーヤなど呑みつゝ見物する。室内は寒い程涼しいので、滑る者はよい加減に暖まるが、坐して居る者は寒いから四壁に蒸汽管を通じて寒氣を暖めてある。かうでもせねばビーヤが賣れまい。夏冬まるでゴッチヤ混せであるが、避暑旅行に行かれぬ者に、涼しい處で運動したり遊んだりさせる工夫、至極妙だ。

◎さて立歸つて又ニューヨークの夏だ。高架鐵道の上から左右を見やると、三階五階の窓にクションを敷いて、其の上に兩肱を支へて首を突出しホヤ〳〵と暑い風を吸つたり往來の人を眺めたりして居る女が多い。夏は日本家、日本服に限る！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

聖書に見ゆる婦人觀

口村信郎

誰れか賢き女を見出すことを得ん、その價は眞珠よりも貴し。

これはレムエル王の母の、その子に與へた言葉であつた。いつの時代どこの國でも萬世に傳へてこれこそは賢き女であるといふ女は滅多に無い、紫式部も亦其當時に愚かな女ばかりと嘆じたほどである。丁度レムエル時代も殆んど同じであつたことで、この賢き女とは Virtuous Woman といふことであつて、智識的ではなく、品性に於て秀でたる有德なる淑女を指していつたのである、婦人は槪して男子よりも智識に於て優ることなきは、それが天性從順、忍耐、節操等の諸德が比較的男子よりも勝れて居るからであらう。

言ふことは易いが、婦人が果してこの諸德に缺くることが無いか、今の世にはこれら婦德が著しく衰へて居ることを慨歎せざるを得ない。婦人の高潔は單に其一家庭に限らず、實に國家社會の存在維持に就て、偉大の感化を與ふるものなることは、世界の歷史が證明して居るので、我日本國の婦道は是れ世界に輝ける人道史として誇るべきである。然るに近時文運の進める割合に高潔なる婦人は殆んど罕の罕れなるを奈何せむ、單純と見ゆる婦人も餘程緻密な頭腦を以て細心探鑿すると、そういふ婦人に却て缺點あり罪惡を犯してゐる婦人が寧ろ今日は多くなつて來た。實に女は外面如菩薩內心如夜叉といふのが甚だ酷な觀察に似て、殘念なことにはそれが普通であるやうだ。卽ち外貌に顯はれたる女性は蓋しその女の幾十百分一を顯はして居らぬからである。それで昔の人のいつた言葉に、「娘を娶る勿れ母を娶れ」といふことがある、これが其娘の性質がどうであるか、娘といふものは中々外に裝ふて居る性癖が容易にわからぬ故に、其娘を見ずして其母の性質態度を見るとわかるとのことである。又「女は弱し、されど母は强し」といふ泰西の格言、痛切にして實際を穿ちたる名言がある。言葉は東西其形式に於て異なるものあれども、其意味は同一轍である。之に因て知る、本當の女らしい女とは、まづ以て母の如うな女、これが女らしい女で、また眞に賢き女といふことである。

女にして賢き言葉を吐き、一個人として人の心を動かすに足る意見とか一家訓を世の遺敎とするには、どうしても母の如き見識あり威厳がなくてはならぬ。素養なき女は如何なる名言も到底眞價値のあるものにあらずして、却て害のあるも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のである。

されば世には處女の美を賞讃するものがある。併しそれは恐らく女性的詩的眼光を放ちて見たるか、さなくば、たゞ、何となく、うぶな、無邪氣な所謂イノセントアイを以て見たるものか、二者必ず其一に居るに相違あるまい。これは觀念美に映した主觀的一方の見方で、其實際ではないことゝ知らねばならぬ。兎に角も事實としてはかく觀察するは寧ろ常識上許さるべき見方であると信ぜられる。今日の醫學上から又心理作用として心理學上から見ても　婦人美の絶頂は三十歳以上で、それが必ず母となつて三人以上も子供を生み育てた婦人にありとの話である。これは形體的の美よりも、モット深い抽象的精神的婦人の忍耐、貞節、從順、勇氣、犧牲の諸德の美を具體的にいひなしたことである。たとへ婦人が子供を生むだが爲めに、其容色が外面上窶れたるやうに見ゑても、それが直ちに精神美のあらはれと見るのであつて、例へば處女のふくやかな色艶が子供を生みしゆえに、其額には小皺が見ゑ初めるとか、眼瞼が廣ごりてやさしかりし瞼が鋭くなりしとかいふのは、そこに母として其子供に對する同情の力と愛の犧牲美を顯はして居るもので、猶之れ彼勞働者の骨格逞しく肉肥ゑ太り皮膚が濫色して居るを健全美とする如うなものである。まことに母の苦勞心配は一通りでない、苦心なき犧牲なきものに本當の愛の輝きはあるものでない。花にたとふれば處女の美はまだ開かざる蕾であるが、母の美は蕾を破つて咲きぬる滿開の完全美である。

賢き婦は夫の冠辨なり、辱をきたらする婦は夫をしてその骨に腐あるが如くならしむ。

とこれまた箴言中に敎へられたる誡で、賢き主婦は夫の冠辯なりとは、いかに〳〵婦女として尊敬したる有難い言葉であるまいか。妻女の天職はこの一語に盡きてゐる。今日良妻賢母主義を以て學校となく社會となく絶叫しその實現に力むると雖も、それらは唯〻形式の敎育を以て過り、婦女の道德を改善せむとするに止まりて、一も道念を涵むる根本の救濟をば、心靈より神の力を仰ぎ求むることが無いから、其功果更に見るべきものがないのである。聖書は實に婦人の天職を高め信仰に於ても、亦强き感化を與へたる歷史上の傑女が多くあることを證して居る。サムエルを祈禱の中に幾年も屈辱を忍びて、漸く神より與へられしハンナのごとき、身は賤しき產婆にしあれど、殘忍刻薄なるエジプト王をして神を畏れしめたるヘブルの女シフラ及プワの如き、身異邦の皇帝の后にして、當時總理大臣にして王の無二の寵臣天下悉く彼の前に慴伏せるハマンをして、彼れの奸策を訐き、ユダヤ人の苛稅虐遇を立ろに救ふたる烈婦エステル、眞に姑の愛を得又愛し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たるルツの貞節、其他基督に一生を捧げて十字架と復生とを世に傳へたるマグダラのマリヤの如き、之等婦人は皆世の光、義の冠冕を戴きて神と偕に生きしものであつた。

以上の烈婦傑女に反して辱を來らする婦人は人間社會をして脫疽の如く腐らし、所謂傾國倒城の恐るべき災禍を招かしむ、ナポレオンは實に佛國を救ふには政治家軍人學者にあらずして唯賢き婦人を娶すと揚言したことであつた。千軍萬馬の裡を馳驅し叱咤する將士も、その妻女をして意のごとく圓滿ならしむることは至難しいのである。おなじ箴言にも「爭ひ怒る婦と偕に居らんよりは荒野に居るはよし」といつて、婦德のなき家庭は荒野に於けるごとく寂寞不毛ならしむと、實に寒心すべきことである。

聖書中の婦人はいづれも信仰に於て卓越したるものである人の顏を畏れず、夫よりも神を愛せねばならぬ。ブース大將が其妻に對して尊敬を拂ひ世に誇りしは「我妻は我よりも神を愛して居ることを感謝する」といはれたそうである。それ故貞節といふものは、神に對する信仰がすべて基礎でおなじ愛といふものも、たゞ親切だとか、同情が深いといふことでは足りない。そこには必ずや神を愛して居るものでなくば取るに足らぬのである。キリストを待遇せしマルタよりもキリストの靈を慕ひ之を愛したるマリヤでなくてはならない。

斜めに視たる家庭

一色醒川

其の一

或る敎育熱心の一家族がありました。常に敎育問題に注意を怠らず、新聞などを見ては相手を選ばず、批評したり意見を述べたりする。そして遂には、『是れと云ふのも文部の當局が惡るいからサ』と痛嘆するのを常としてゐました。

處が家族中に中學生があつて、試驗前など問題に惱むときは、平素聞かされてゐるのを宜い事にして「あら文部大臣が俺を苦るしめるんだ」と又しても公然にやり出す。其眼の士は皆學生に同情するものと心得てゐる。

私は一般學生界の風潮がどうか知らないけれど、さう云つた事を家庭で批評討論的に聞かすと云ふのも、宜し惡るしだと、外ながら思つた事でした。

其の二

是れも或る家庭の事です。

其家の母親が兒供を學校に急き立つるには『もう十分前だから早く行らつしやい』と、いつも時計を標準としてゐるの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

でした。或る朝どうした事か飯がまだ間に合はない、兒供は遲くなると云つて、食べずに出かけやうとしましたが、母親は『まだ早いから食べてお出で』と云ひます、兒供は『だつてもう五分前だもの』と時計を指した、すると『是れは三十分程進んでゐるの』と云つたが、兒供は肯かない、母親は其れを叱るやうにして高壓しやうとする。

時計を進めたり遲らせたりは、何でもない都合のやうに輕るく思つてるのであらうが、あんな事をして自然兒供に「信」の力を鈍らせはしなからうかと、私は外ながら思ふのであつた。

其の三

夜の九時になると乾度兒供を寢かせるのを規則にしてゐる家庭がありました。ある晩其の家の二階で親睦會が催ふされた、兄の一郎君が『あなたが寢ないと次郎が寢ませんからね』と宣告されて母さんに曳かれ、弟の次郎さんと共に、名殘惜しげにあと見ながら、下の寢室に降りて行た頃は、まだなか〳〵興酣はな頃でした。

私は結構な習慣だと其れを見ました、しかし……本統にしかしです……此の湧く樣な歡聲をちつと聞きながら寢つかれたらうか、若し寢就かれないとするとどうなるのだらう、却つて天眞を害けはすまいか。斯う云ふ場合には、一二の除外例があつた方が宜いのではなからうか、イヤ矢張り一點一劃と雖も破つちやア惡るいのがらうか、などゝ外ながら思ひました。

其の四

ある家庭に遊びに行た時の事でした。

「ヘエお父さんもお茶をお一つ」、斯う云つて私に茶を出したあとで、其の主人公の前に茶碗を置いた「お父さん」と云つた其の人は、細君の母さんに當る人である、細君が其の夫を「お父さん」と呼ぶのはよく聞く事だが、其の親たる人が自分の女の婿をつかまへて「お父さん」は可笑しい、何たる不條理ぞやと云ひたくなる。

しかし家庭の本位が幼なき者に在りと見る時は毫も變では無い、ハヽあれで見ると矢張り冥々の裡に、さう云ふ意味約束があるものか知ら、などゝ外ながら思つたのでした。

其の五

『名は春ちやん、お父さんは毎日本を見て居る、母ちやんは寢てゐる』、斯う四歲位の迷ひ兒が、人に尋ねられて云つたとか、先頃新聞の三面記事にあつた。私は子供の口から出た、此の短かい純眞なる語の中に、或る階級に於ける、悲慘なる人生の縮圖を見る心地して、黯然たらずに居られなかつたのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小供と虚言

（子女敎育に對する母の務）其九

海老名みや

△無邪氣な虚言と容赦の出來ぬ虚言

虚言を云ふことは最も惡いことである、決して虚言をついてはならないと云ふことを、子供に敎へる事は、最も大切な事であつて、又最六ケしい事であります。天眞爛熳の幼兒は思ふがまゝを曝露して、些の秘密もとゞめないかと思ふと、又案外にも小さな胸に小波を立てゝ、種々の作爲を試みることもあります。又は其子が想像力に富んだ子でありますと、些細なことを誇大に話して見たり、チヨツト眼に觸れた影の樣なものを、さも〳〵眞實しやかに吹聽したり、大人から見ると、マア、と眼を見張る樣なこともあります。僕は昨夜太閤秀吉の夢を見たよと一人がいひますと僕も夢を見たよ。義經の夢を見たよ、義經がお船に乘つて大砲をうつてネへ、なんぞつて、それは〳〵、兎方もないことを云ひ出します。すると一力でも負けない氣になつて、秀吉がお馬にのつてお鎗を持つてとやり出します。それで御本人等は至て眞面目です。マア如何いふ氣であんなことを云ふのであらう。この調子では、今に大虚言つきになりはしまいかなどゝ、心を傷めたこともありますが、それは大人の心を以て子供の心を計つた考へで、こんな場合に子供が虚言八百をつひてるのは、子供にとつては虚言でなく目醒めながら夢を見て居るのです。甲の子供が秀吉の夢を見たといふのは慥かに秀吉の夢を見たのでしやう。そこで乙の子供は秀吉で義經を聯想して義經の夢を見たと申ます、おまけに義經がお船にのつて、大砲を擊つて居ます。そこで一方の秀吉も活動しだしてお鎗をもつたり、馬にのつたりといふ樣に、それからそれと、丸で字つなぎで

早稲田大學講師 安部磯雄著

菊版箱入、裝釘優美

新刊 婦人の理想

（卓越雄大なる婦人論）

定價金壹圓貳拾錢 郵税金八錢

婦人としての職務を偏重し人間としての發達に少く意を用ゐざる女子教育は根本的に誤れり男子と婦人は便宜上職務を異にすることあれども其體力智力徳力を發揮せしむるに當り其機會及び權利に於て何等相違の有るべき筈なし故に婦人の理想は出來得るだけ男子と並行して諸能力を開發せしむるにあらざるべからず今や婦人に對する著者の熱烈なる同情は凝りて此書を爲せり

海老名彈正著

新刊 斷想錄

（夏期修養の好侶伴）

定價金六拾錢 郵税六錢

斷想錄は著者が敎壇獅子吼の餘響也。片言寸句宗教を論じ、人生を語る。斷想の細漣其轟きや大ならずとするも、よく洋々たる靈海の壯姿を偲ばしむ。想を言外の妙趣に走せて、遠く連想の興會を恣にせしむるは蓋し斷片の尊ぶべき所以なり、此書盛夏三伏の候をトして出づ。願くは讀書子がポケットに收められて綠蔭清奥の伴侶となり、涼風至る所靈感天外より下るの一助たるを得んか

早稲田大學講師 岸本能武太著

裝釘堅牢クロース製

新刊 英語研究 譯解の原理

（最新最精の英語發音法）

定價金七拾五錢 郵税金六錢

著者が三十餘年の研學と教授の經驗に基き。近時大に進歩せる英語發音學の原理を經とし。又英語の發音に對して特に日本人の感ずる困難を緯とし編成したるもの。ABCの讀み方母音子音の區別及發音法。半母音と重母音の發音。語の切り樣、アクセントの性質及び所在等に關し其要訣を網羅して遺す所なく親切丁寧に説明したるものなれば此種の好著殆ど絕無なる本邦英語學界にありての貴重の寶典たらずんばあらず

日本女子大學校教授 松浦政泰著

英語研究 發音の原理

（英語獨習の好指針）

定價金參拾五錢 郵税金四錢

本書は著者が多年教授の實驗に基き英語初學者のため分解法と作表法とにより英文の構造を明瞭に解説し英語の譯解に一新機軸を出したるものにして且四百五十餘の練習問題と其解答を附したれば獨修の好指針たること云ふを俟たず、特に高等學校入學受驗の好參考書たり

發行所 東京市小石川區櫻木町六 北文館

賣捌全國各書店

東伏見宮妃殿下
の御愛讀を辱ふす

入會の最好機今日直ちに入會せよ

機敏に世の流行を逐うは本會の獨得

內容斯の如く豐富

壹ヶ年修了

女子手藝講義錄

裁縫科（和服洋服）　編物科（各種）　組糸科（各種）

刺繡科（和洋各種）　袋物科（各種）　造花科（花卉果實）

割烹科（和洋料理 和洋菓子）　細工物科（撮細工、綿細工、瓶細工 裁縫細工 押繪接物細工）

手藝用圖画科（用器畫、配合法、運筆寫生法圖案法）　手藝教授法……

其他課外講義數種

共立女子職業學校
櫻友會內
女子手藝普及會編

入會者の質問は毎號誌上を以て懇切叮寧に解答をなす

優待會員の製作品は審査の上賞品を呈す

壹ヶ月入會費 僅に金參拾錢　◎壹ヶ年會費 金參圓二十四錢　◎半ヶ年會費 金壹圓七十錢

日本の婦人は如何なる事情ありとも此の有益なる講義錄を家庭に備へる必要あり（内容見本入會規定無代進呈）

小中等教員受驗を受けんとする婦人は速に入會せよ

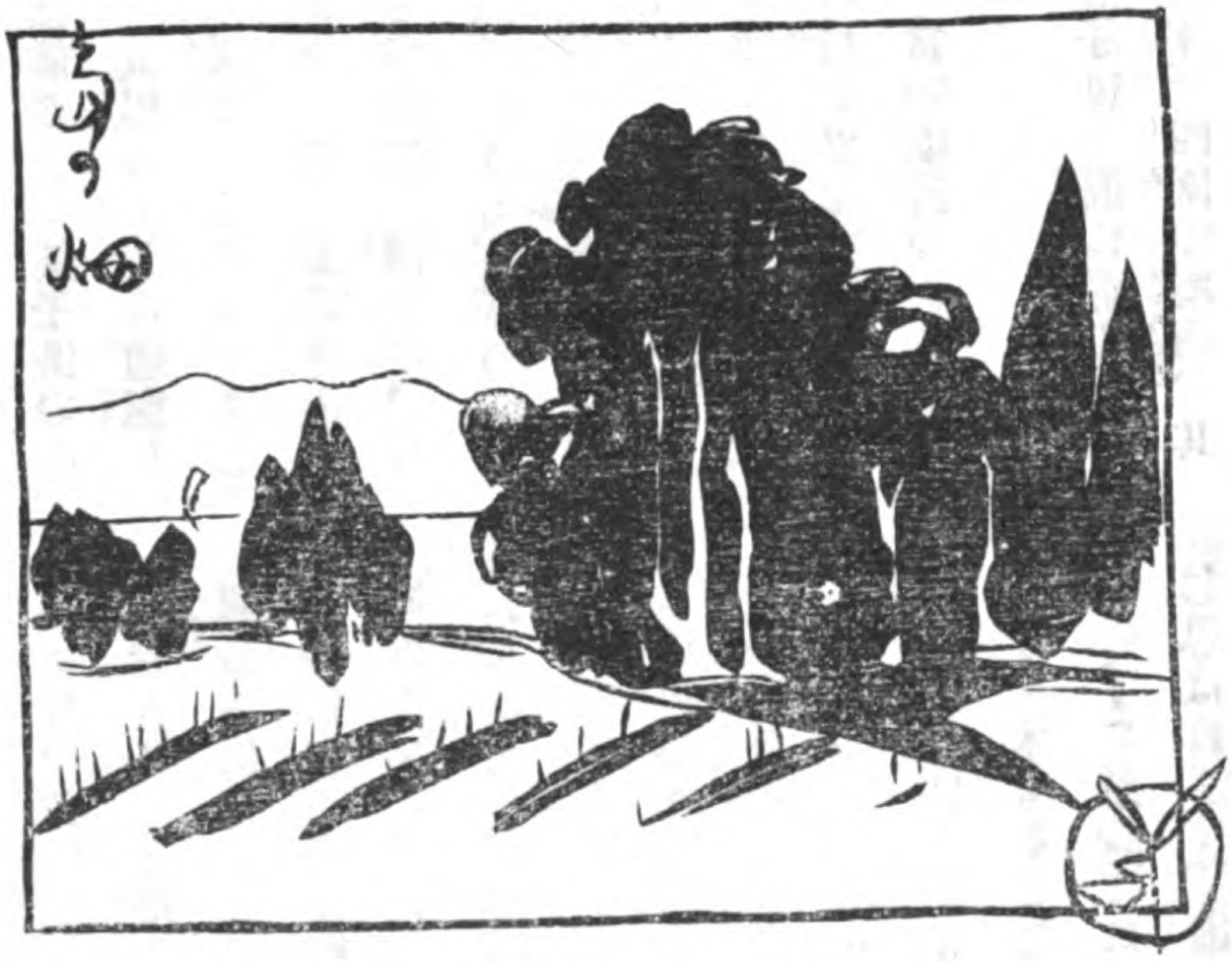
入會申込所　東京日本橋角　大倉書店

▶振替口座東京二三八番◀ ▶電話本局四一四番◀

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もして居る樣に、少しの處にかけて話をつないで行のです。かゝる場合は子供の戯言としてきゝ流し、寧ろ彼等の想像力を盛ならしめた方がよからうと思ひます。

この夢物語より少し進步して、多少眼前の己れの利害に關係したり、又は負ず根性からしてフイト虛言をいふことがあります。例へばお友達同志いろ〳〵お話しをして居ります中に、一人が私の内には御本が澤山、百も千もあつてよといひますと、他の一人も直ぐ私の内にも澤山あつてよといひます。内の猫は鼠をとることが上手よといひますと、私の内の猫も鼠をとることが上手よと、内の猫が鼠をとらないでもすぐ口から出まかせをいふ樣な癖の子供があります。これはよく注意しなければ放つて置てはいけませぬ。こんな場合、若し側で聞て居りましたらば、後で靜かに其子供を獨りよんで、あんな有もしない事をある樣に云ふ樣なことは、大變惡いことであると云ふ事を能く云つて聞して戒しめねばなりませぬ。この樣にフイトいゝ加減



なことをいふ癖が附ましては成長しました後も何氣なしにフイトでたらめをいふ樣なことがあつて、よしんば、かまへた虛言でないとしても、非常に其人格を傷ふことになりますから親たるものは親切丁寧に其癖を直してやらなければなりませぬ。

これらは極めて無邪氣な虛言でありますが、子供にも決して容赦の出來ない虛言をつくことがあります。例へば屋敷になつてる果物を決して獨りで取てはいけないよと兼て申聞けて置きますのに竊かにとつて、こつそり食し何喰はぬ顔をして居ます。少し怪しいと思つて聞いて見ましても知らないと申ます。これは子供の所行の中で最も惡い事であらうと思ひます。惡といふことを承知して居ながら其ことを爲して知らん顔をして、人目を欺くといふ事は實に恐ろしいことであります。朧氣ながら發して來る正義の念も微かな良心の光も皆打消して自己の小欲をみたさんとする行爲です。誠に恐ろしいことでありますからかゝる行爲に對しては聊かも赦す所なくしみ〳〵其非を覺るまで訓誡を加へ、

又場合によつては厳罰を加へねばならないと思ひます。

△矯正の仕方

其他子供のつく虚言に様々ありまして、皆其場合によつて其種類を異にして居ます。親たるもくは能く〳〵其子供の心の状態を會得し、又前後の事情を察し、其場合〳〵に適應した敎へを致しませぬと、或は子供を敎へ過ることになりまして、却て宜しからぬ結果を來すことがあります。五六才の子供が、かの第一例の夢物語の様な虚言を申た時、何んだ、お前は、そんな虚言をいつてと厳しく叱責ましても、虚言といふことはどんなことだか分りませんで、なんで嘖かられるか不思議に思つて、只親の權幕に怖氣を生じ、一縮にちゞかんで仕舞ばかりです。そして斯様なことが屢々ありますと、天眞爛熳な風は段々失せて來て何でも親の目を忍んでると云つた様な、忌な習慣が附まして終には本當の虚言つきになつて仕舞ことがあります。

竹の子の眞直に生立つ様に延び〳〵と子供を直に育て度ものですが、仲〳〵人間は六ケ敷ございます。四圍の境遇、其人の生れつき、人様々に異つて居りましてそれに従がつて自ら人格が出來上つて參ります。誰に遠慮もなく思ふ存分日光をあびて生育た野中の一本杉の様に、又は森林に幾百幾千本の杉が押あひへしあひ我を勝ちに上へ〳〵と見事に伸びた様にして育つて行く人もありますが、私共の中の子供はそれとも又よほどおもむきが違ふと思ひます。マア庭に植へられた樹木の様なものではありますまいか。植木屋が始終其木の成長を見、其枝振を直す様に親は其子を注意して居ります。よく參りますと野生ちよりも精力も強く、枝振も見事で、自ら風致も供はるものでありますが、やりそこねては實に見惡いものになつて仕舞ます。私の庭に梅の木が二三本ありますが初めこゝにこして來ました時はほんの野生ちで、延び度はうだい四方に枝を張つて、何の風情もない木でありましたが、それでも花は一ぱいにつけ、可なりに果も結びました。其後植木屋が參りましては此枝が惡いかの枝が邪魔だと申て段々かり込で枝振をつけんとして居りますうちに、いつの間にか幹と大枝の木ばかりで丸坊主になして、今は花も果もなきものとなつて仕まひました。下手の植木屋の手にかゝつてはこの通り、木もそこなはれて仕まひますその様に下手な親や敎育家の手に懸つては、人間も傷はれて仕舞事は少くないことと思はれます。虚言つきの癖を矯めんとして益々虚言つきにしたり、又は餘り大目に見て益々其癖を募らせるといふ様な事のない様に、其敎育よろしきを得まして、幼少の時より全く惡習に染ます、眞直に育て度いものであります。虚言をつく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ことは本人の大惡習であります。力をこめてとりのけねばなりませぬ。

△同情心

己れの如く汝の隣を愛せよとは、基督の我々に賜ひました大敎訓でありまして、世の生命であると思ひます。これなくては世は丸で砂漠です。と申て、中々實行の出來難いものでともすれば世は我利々の集りとならんと致します。此實行は幼い時から常に〳〵其習慣をつけて置かぬと年をとつて容易に出來ることではありませぬ。人に物を與へたり又は人の爲に勞するのは如何に嬉しいものであるといふことを、幼年時代から實驗して、又其實驗を幾度も〳〵操返し所謂習性となるまでに達する樣に心かけることが肝心だと思ひます。これは案外六ケしいことでなく、しかも幼年時代に敎へ安いものであります。大事なおもちやでも、自分の愛する親や乳母が頂戴と手を出しますとすなほに喜んで呉れるではありませぬか。そして其嬉しさを滿面に表はして手足を振つて喜びます。少しく大きくなつても、何がな親を喜ばせ樣といふ氣はたへずありまして、例へば狀袋がないが、何處にか一枚位ありそうなものだと思つてさがして居ますと、ア、お母樣私が持つて居りますといつて、二枚か三枚か自分がもつてるのを皆持ち出して參ります。こんな切つぱしはないかと云つてさがして居ますと、私がもつて居ますといそ〳〵立つて有丈けの切れものを大事な箱の中からもつて參ります。ア、これが丁度よいこれをお母樣に頂戴とでも申ますとそれは〳〵大喜でございます。然しこの時そんなものでは仕方がないとでも申さうものなら大失望して如何にも可愛さうの樣でございます私自身も幼い時に其實驗をしたことを記臆して居ります。六七歳の比であつたと思ひますが何より好きな西瓜をたべて居りますとそれがあんまりおいしうございましたからお祖母樣マアこのおいしいことゝいつて三角に切た上の方の一番よい處をとつて上げましたら、祖母もしみ〳〵喜ばれて、本當においしいネ、といつて食べられました。それが嬉しくて其後おいしいものは自分獨りで食べては滿足しませんで人に別ちたいといふ氣が起ります。受るより與るは幸なりとは眞にこの時實驗したと思ひます。子供の小さな深切は充分に歡迎してやらなければなりませぬ。こんなことが積り〳〵て彼等の深切心は追々に成長發達して參ります。殊に今回の水害の如きは此同情心の敎育を爲すに最好機會だと思ひます罹災者へとても子供等があれもこれもと持出しましたらば、成丈とめないで出す樣に、自分等の不用な好かないものばかりでなく惜しいものでも與へる樣に奬勵したいと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とはの夢

せい子

○

雨となりぬ山又見へず君に得し歌のあまたに今日はくれなむ

○

我爲めに夏やすかれとよき歌のあまたを集め送る君はも

○

嗚呼秋と知らず叫べり玉黍蜀の穗の微かに搖ぐ夕の風に

○

いつよりぞ秋には入りし雲の色雲のちぎれに興わく日かな

○

なげられしまゝを根さして月見草又花咲くと婢さわげり

○

あざやかに空は晴れたり武藏野や秩父の山に夕日さす見ゆ

○

やられしを泣く君あるが我爲めの途に果なき涙なるべし

○

人戀ひし都はこひし旅情去り得ぬまゝに秋の山見る

○

或日ふと隣やしきの水汀に花の盛りの合歡を見出き

○

見出つる合歡の花かげ花かげにわが世の夢よとはにさめざれ

湯臺叢話（其二）

谷津直秀

四　タルメージが教場で或日神學生に向つて、一の針で幾つの天使を支へることが出來るかと問ひました。學生はまた例の古臭い問題かと笑つて答へるものはありませんでした。其處で、先生は四つです。或晩夜ふけて私が嵐を犯かして海岸の路に通りかゝりますと、一軒の家に一の燈が見へました、此深夜にかくまで働く人もやと不思議に思ひ、何の氣なしに窺ひますと、一人の母が熱心に針仕事をしてゐる其わきに薔薇色の嬰兒が安らかに眠つて居る。父は多分荒海に航出して歸らぬ航路に上つたのでしよう。それで私は四つと思ひますと

五　或る都の家で晩餐に田舍の紳士を招待しました所が、其人の食で方も鄙びて色々可笑い事がありましたが、最後にコーヒーを下の皿にあけて吹きながら呑みだしました。これに俺しましたときは都の女だちも笑を禁ずるのに餘程困難の樣でしたが、主婦が平然として自分も矢張コーヒーを皿にあけて呑み出だしましたので、一座の平和を保ち田舍の紳士を充分にもてなふ事が出來たそうです、此親切と頓才は常に貯へたひものです

六　ション、ウエスレーがチヤールスと米國に傳道に來て、サバナと云ふ所で學校の先生をして居ました所が、生徒に跣で通學するものがある、それを靴をはいて居る生徒が非常にいぢめました。ウエスレー其を矯正しようと思つて、先生自身矢張裸足で通學して、其まゝ教場にも出てました。此を見てからは誰人もはだしの生徒をいぢめるものは無かつたそうです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

不思議な邂逅

元良よね

英國の南海岸にスワンストンといふ小さな漁村がある。都人士のごた〳〵入り込む海水浴場よりも遙か閑靜で質朴で其上潮浴に便利といふので、夏季になると海に面した方に在るほんの五六軒ばかりの小奇麗な家は、大方避暑客の逗留所となるのである。此村にチエム、プライスといふ漁夫がゐる。地の產れではない、數年前妻と滿一年位の男の兒とを伴れて他村から引き越て來たのである。其妻といふのが斯ういふ社會に珍しい淸淨好なよく忠實に働く氣立のよい婦人であつた。それだからヂャッキー(兒の名)なんぞも何時でも小洒滿した風をさせて、一家の中は貧乏世帶といへ、何となく愉快さうに暮してゐた。それにこのヂャッキーといふ兒がくり〳〵肥た誠に愛らしい兒であつた。

物事はとかく自由にゆかぬもので移轉後一年程すると妻が病死した。チエムの悲歎は非常であつた。それに子供を抱へてゐるので如何することも出來ない。それで暫くしてから後妻を貰つた處が、今度のは先のとは大違ひ、極く〳〵不性で粗暴と來てゐるから、後から〳〵と生れる己が子の世話も碌に出來ない始末、こんな婦に限つて他人の產だ子を可愛がつた例がない。

ヂャッキーは頭髮のつや〳〵した眼のぱつちりした可愛らしい快濶な兒で、面白くない家庭に育ちながらも、晝の間は大抵濱に出て他の子供達と一緒に歌うたつたり遊んだりして樂さうに暮してゐた。又近所の人達が使でも賴むと快く素直に働くので、誰にでも好かれて寒い時分なら招び込まれて爐にあたつたり、時には御馳走になる事なんぞもあるといふやうな風で、村中の人たちから愛されてゐた。

ある夏の事であつた。ヂャッキーが平常の樣に濱で遊んでると、少し離れた所で朋友のモレといふ女兒が、自分より五歲も六歲も年上らしい男兒と爭つてゐるから、ヂャッキーは急で其方へ馳けていつて見ると、今しもその男の兒がモレの林檎を二個攫んで逃げ出した所であつた。モレは林檎賣の娘で母が病氣なので自分が代りに賣りに出たのである。ヂャッキ

ーは溫順いけれどもまたなか〳〵勇氣のある、年齢の割にしつかりした兒だから、それと見ると忽ち林檎盜人の後を追ひかけていつて、とう〳〵林檎を奪つて喘ぎ〳〵走つて來た、さうして林檎をモレに渡した。「豪い〳〵今に大きくなつたら立派な兵隊さんになれるぞ」といふ聲にヂャッキーは喫驚して後を振りかへつて見ると、脊の高い髭の生へた立派な紳士が溫顏を自分の方へ向けて立てゐる。ヂャッキーは嬉しいやら恥しいやらで面が眞赤になつた。紳士は衣嚢から五十錢銀貨を一個取り出してヂャッキーに與へ滿足さうに立ち去つた。

「モレちやん、あれ何處の紳士、僕、見た事はないおぢさんだ」

「ヂャッキーちやん知らないのかい、ありやホーキンさんとこのお客樣ぢやないか、ソラ軍人さんのお嬢さんが毎日海に入りにいらつしやるだらう、それから時々白い馬に乘てソラ〳〵あすこにお嬢さんが……」。モレの眼の示す方を見ると成る程碧眼の髮の房々と垂れた美い少女が白の小馬に乘つて別當をつれて通る。兩兒は急いて馬に尾てゆく、馬は一番大きな家の前に止つた。戶が開くと中から脊の高い紳士が出て馬から少女を抱きおろす。少女は奧の方へ驅け込んだと思ふと忽ち現れた。手にビスケットの紙包を持て、さうして馬に見取れてゐる兩人の兒に其をやつた。頓て馬は他所に引て行れたから兩兒は其處を去た。

其日の夕方ヂャッキーは戶口に凭れて海の方を茫然眺めてゐた。小さなあたまの中一ぱいに今朝の紳士と白馬の令嬢を畫いてゐる。時にピシャリ痛い物が耳の邊にあたつたと思ふと「エー邪魔ッけな、さつさと寢てしまあねーか、自分の子の世話で澤山だのに他人の子まで世話やかさー」と雷のやうな聲が響いた。ヂャッキーは早々お煎餅のやうな薄い硬い〳〵蒲團の中に、這ひ込んだ。

翌朝は又いつもの通りヂャッキーは戶外に出た。不圖麵麭屋の前へ來ると、出來立のほこ〳〵湯氣のたつパンが甘さうに店頭にならべてある。ヂャッキーは今朝はもう御飯は食べたが、宛行扶持だからお腹は空いてゐる。パンを見ては涎が垂れさうだといつて買て食べる事は出來ない。昨日の銀貨は繼母に渡してしまつた、幾人もの人がパンを買てはかへる。頓て二人連れの婦人が來た、其中の稍年とつた方の婦が滑卷パンを一個ヂャッキーに呉れた。ヂャッキーは莞爾してさも嬉しさうな面附で丁寧にお禮をいつた。婦人はヂャッキーの顏をつく〴〵視て同伴の若い婦人に向つて「あんなにも嬉しいんでせうかね、何ていふ可愛い兒でせう。さうしてあの、凉しさうなきれいな眼だこと我主のお嬢樣のお眼酷似ぢやありませんか」といひ、又ヂャッキーに向つて「お前の名は何とい

ふの、おべゝが大變破れたねー、母樣縫つて下さらないの、お前の母樣ないのかい」などゝやさしく尋ねた。チャッキーは母があるけれども實母でないことを話した。婦人は如何にもかはいさうなといふ風情でチャッキーを視やりながら店を出ていつた。二人は道々こんな事を話してゐた。

老「ねーおすゞさん、我家の且那樣はあの位の年の男兒を御覽になつたらどんな御心持がなさるでせう。坊樣が今生きてゐらつしやりや丁度あの位におなり遊すんですもの、本當にかはいゝお子でしたよ、坊樣がお生れになつた時の且那樣と奧樣のお喜びはどれ程だか分らなかつたの、本當にあの沈沒つていふ怖ろしい報知が來た時は私どうしやうかと思つたの奧樣の御身になつたら寧御自分が死んでしまひたいと思召したでせうよ」

若「マー一體如何いふわけなの、もつと悉しく話して頂戴な」

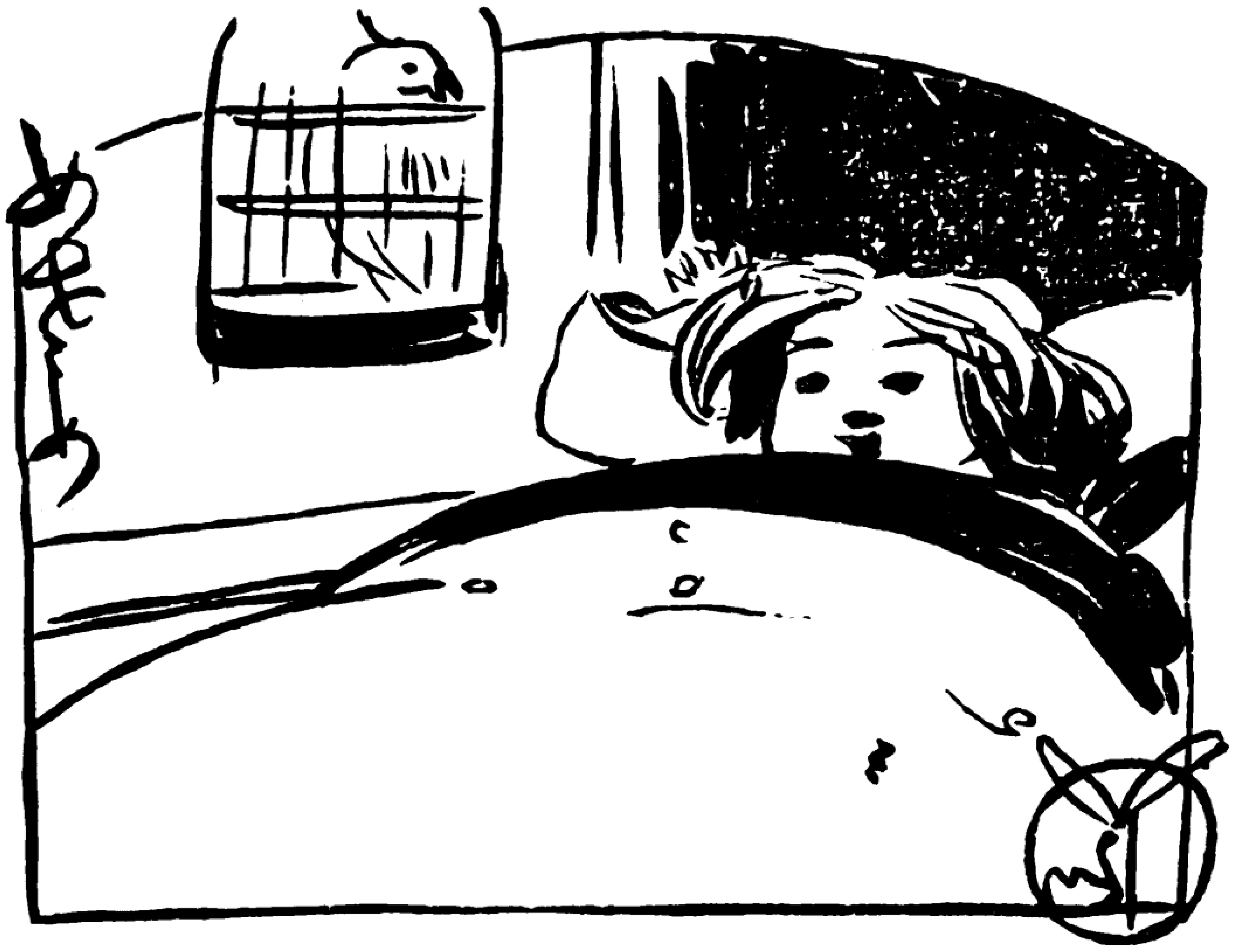
老「あのねーおすゞさん、お前さんも聞た事があるでせうが一體印度っていふ國は大變氣候の惡い國で英國人の子供は中々育ち惡いんですつて、それでお孃樣もお誕生後二年程すると、段々頰の紅色も何も無くなつて日々お瘦になる許りで、そりやおかはいさうだつたの、それで據なく英國にお送りになつたんですよ、それから半年許りすると、坊樣お生れになつたんでせう。處がね、先の例もあるもんですから、今度はまる一年になるのを待て又英國にお送りになつたんです。印度人の婆やを附けてさうして丁度其時分に英國に歸任方があつたんで。其方に萬事を賴んでねー、本當にね可愛お孃樣をお離しになつた其上に、又大事の〳〵坊樣とお別れになるんですから奧樣はどんなに辛くおあり遊したか解りやしませんわ、それだからつて且那樣御一人印度に殘して、御自分が坊樣をつれて英國にお歸りになる譯にも行ないでせう、それで仕方がない、これも子供の生命を助けるためだからといつて、辛いのを忍んで坊樣をお手離しになつたんです。處がね何ていふ運の惡いのでせう。坊樣方がお乘りになつた、其船がもう少しで陸に着くといふ時に、俄に暴風が起つて船が暗礁に衝突たとかで沈沒してしまつたんですつて。隨分船の人たちが一生懸命に働いたんださうですけれども、死んだ人や行衞不明の人が澤山あつたんですつて、それでうちの坊樣も婆やも其中にはいつたんですの、奧樣は大變なお落膽でね、左樣もう六年餘になりますけれども一日でも坊樣の事をお思ひ出しにならない日はありません。マー且那樣やお孃樣と御一緒の時はなるたけ愉快さうにしていらつしやるけれども、海でも眺めていらしつたり、又同じ位の男の兒を御覽になるとお眼に一ぱい淚をためていらしつてよ。又「ねー婆やセシルが生きていたらね、何故私はあの兒を離したんだらうね」、

なんて度々仰しやるの。そんな譯で旦那様も印度をお辭しになつて英國にお歸り遊したんです。それからお孃様と御一所におゐで遊す事も出來るし、奥様の御健康が餘程よくおなりになつたんです」。

こんな談話をしながら婢だちはいつの間にかシーモール大佐が借りてゐるホーキン氏の家の前まで來た。スワントンの新鮮な空氣は確に一度健康を失つた大佐夫人と印度生れの令孃のため何よりの藥であらう。

扨てパンの御馳走でお腹をふくらかしたヂャッキーは水際にモレの姿が見えたので濱の方へやつて來た。今日は一天晴れ渡つて海の面は鏡のやうである、折しも海岸に用意された舟を目ざしてシーモール大佐と大佐夫人と令孃とが歩いて來る。

「お早うございます、旦那様今日はすばらしい凪でがすよ、それに此通り舟も一番良いやつを持て來ましたよ」と船頭がいふ、リーさんにお魚を澤山捕つてあげやうね」と大佐がいふ。リー孃は大喜悦、手を打て笑ふ。



船頭はこのやさしい美いお孃さんをこの大きな硬い手で抱きつぶしては大變といふやうな手つきで怖々少女を舟に乘せた。そこらに遊んでゐた子供達は物珍しさうに皆集つて來た。「それお前あれを取つてくれ」「やれお前は何をどうして呉れ」と船頭に云ひつけられる儘にみんなお得意になつて、小さなお手傳をしてゐる。無論愛らしい少さなヂャッキーも其中にゐる。頓て舟は岸を離れた。ヂャッキーは何時迄も舟を眺めてゐた時に大佐夫人を懷しさうに見送つてゐた。「何だか見た事のあるやうな氣がする、けれども何時何處で逢たかどうしても思ひ出せない」とこんなに思つた。さうして高い岩に登つて見えなくなる迄舟を覗つめてゐた。リーの聲が風に送られて時々聞える　舟の中の人達はどんなに愉快だらう、この樂しさうな光景をまのあたり見てゐるヂャッキーは、貧しい巳が住家や邪險な繼母の事を思ひ比べて、小供心に悲しく情けなくなつて、獨りでに大きな涙の玉が兩の頰に轉つて來た、又こんな事を考へた「もしかしたらあの紳士、小僧が要るか

も知れない。もしもあの紳士が私に「お前馬の世話をしにうちへ來ないか」なんておつしやつたらどんなにうれしいだらう。

彼れ是れする間に早や晝近くなつた。先刻の舟は返つて來た、大佐は逸早く濱にゐるヂャッキーを見つけて「ヤー林檎娘の助太刀、君、この籠を持ていつて呉れたまへ」と氣輕くいつた。ヂャッキーは得手に帆で早速魚の籠を提げて大佐等の後について行く。リーは大事の〱お魚をヂャッキーに落されてはならぬと氣遣しさうに度々振返つて見る。さうして「父樣林檎娘の助太刀つて何、あの子何をしたの」と問うた。父は昨日の朝の出來事を話して聞せる。夫人に少からず興味を以て此話を聞き度々ヂャッキーの方をふり返つて視る。さうして家に着くとヂャッキーに五十錢銀貨を一個與つた。ヂャッキーは既に大佐から五十錢貰つて其上に復夫人から五十錢貰ひ自分にも不思議に思ふ程急に金持になつた。夫人に向つて厚く御禮をいつて、さうして其處を去らうとしたが、どうも去る氣になれずに躊躇してゐると「何か用でもあるかい」と戶を開けて内に這入りかけた夫人がやさしく問うた。ヂャッキーはその滴るやうな碧眼で慕はしげに夫人を凝視て「私を使つて下さいな、私馬の世話出來ます、それから他の事も出來ます、命て下さればお給金は要りませんから唯來さして下さいな」と思ひ切ていつた。傍にゐた大佐は「君はえらい勤勉家だなー、君位の年ぢやまだ泥土饅頭や玩弄物の船なんかで遊ぶいたづら盛りぢやないか、何故そんなに用事がしたいか」といた、ヂャッキーは俯いて恥しさうに「私大きくなつたら旦那の兵隊さんになりたいんです」といつた。大佐はヂャッキーに名を聞いてさうして後でよく考へて見てそれからヂャッキーの父に一度會て相談して見やうと約束をした。さうしてヂャッキーに臺所にいつて晝飯でも食べてから歸れといつた、ヂャッキーは大佐一家の深切をどんなにうれしく感じたか解らない、さうして希望を以て家に歸つた。

其日の午後大佐は散步の序にそこらに遊んでゐた子供に、此村にヂエム、プライスといふ人があるかと尋ねると、「エー今彼所に海の方を向て立てゐるあの人です」といつて敎へてくれた。ヂエムは極めて粗野な、しかし氣の良さうな男に見える。さうして大佐が自分はヂャッキーがひどく氣に入つた、それで若しもヂエムが同意ならヂャッキーを召びたいといふとヂエムは滿足の樣子であつたが暫く考へて

「旦那、彼はね實あ私の子ぢやないでがすよ、誰の子だかも分らないんでがすよ」

「そりや又どういふ譯かね」

「話しや長くなりますが、實あ妙な事でしてね、私が、先妻の

メリさ二人でドーバーの近所に住んでゐた時分で今から五六年前の事でがした酷い暴風の晩にね、沈沒〳〵つていふ聲がするから出て見ると、霧が一ぱいで四邊は眞暗、とても救助船を出す事も何も出來なかつたですよ。それから翌朝村中總出で、救助に出ました、けれども其時あもう船は影も形も見えなくて、唯船の破片や荷物や種々の物が水面に一ぱい散らかつてゐました。其時樽のやうな物が私の船の傍に浮てゐましたから、引き揚げて見るとね、旦那、其中に赤坊が入つてゐたですよ、もう死んでゐるやうでしたが急いで我家へつれて歸つて妻に見せました。妻は衣を脫したり色々して見てまだ息があるつてから申してね、それから暖めるやら色々介抱してゐるうちに泣き出したですよ。マー漸く生れてから一年位ゐでしたらう、口はまだきけませんてした。それでも何だか解らない片語をいひましたよ。それで妻は佛人の子だらうつていひましたが佛人ぢやないやうでした。兎に角英國人ぢやないやうでした。衣服も衣服の上からくるんであつた布もみんな外國の品でした、それで私の妻が我家に子がないから是非自分が育てたいとかういふもんですから子に樣にしてゐたですよ、其後妻か死にましてね、今では後妻に大勢子供が出來ましたけれど、私も彼を離したくもなし、それに親もいまだに分りませんので我家に置ておりますよ」。

漁夫の一語一語によく注意して聽てゐた大佐は「して其沈沒した船の名は何といつたか記憶てるかね」と尋ねた「左樣でございますな船の名はつい記憶ておりませんが何でも陸軍の方に關係のある船らしかつたですよ、時は六月で、左樣、今から丁度六年前でした、私の妻はそれから一年經て歿りましたが歿る前も初中終彼の事を申てどうかよく面倒を見てやつて吳れ、又何處でどう實の親に廻り遇ふ事があるかも知れないからあの時の衣服は大事に保存ておいて吳れつて遺言して逝きました。けれども今日まで何の事もありませんからもう迚も分りますまい、私は元來此村の者ぢやございませんでこんな事のあつた後に此處へ移て來たんで其後誰にも話した事ありませんからみんな私の實子だと思つてゐますよ」、大佐は愈熱心で「その衣服は今でも保存てあるかね―、見せて貰ふわけにやゆくまいか」といふた、

「エー〳〵お目にかけますとも」

シーモール大佐と漁夫のチゴム、プライスとの間にこんな問答があつて、チエムは巳が荒屋に大佐を同伴した。さうして戶棚の隅から古びた箱を取り出して暫く探してゐたが、頓て一つの包を取り出して來て大佐の前へ出した。チエムの妻や子供たちはみんな傍によつて來て何事かと思つてきよろ〳〵見てゐる。大佐は包の中の衣服を一目見ると何ともいへない感じ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

がした。さうして「此を宿所に持つてかへつて妻に見せたいと思ふが許てくれまいか」と尋ねた。チエムは快く承諾したそれで大佐は取り敢ず十圓銀貨を一個チエムに渡して其衣服の包を抱へて急いで宿に歸つた。死んだと思つた子が生きてゐる、一度失つた子が復び得られたと深く信じて疑はなかつた、けれどもどんな方法で此事を妻に明かさうか。一時に強い刺戟を與へるなら妻は堪られまい。假令其刹戟は喜悦のものにもせよ、如何したらよからうかと思案の後、赤坊の衣服をまづ婆やに預げ鈴を鳴らしたら持つて來いよと言ひ含めておいた。

折しも散歩から歸て來た大佐夫人とリー孃はこれからお茶といふので大佐は先づ席に着た。さうして強て何氣ない風を裝つてチヤツキーの父に會つた事からはじめて其物語の一部始終を夫人に話した。夫人の驚愕はいふ迄もない振聲で「その衣服を見られませうか」といつた。頓て鈴を合圖に婆やがはいつて來た。夫人は椅子から起ちあがつて婆やの手から奪取るやうに衣服を取つた。さうしてあらためて見ると背て自分が手づから刺繡たセシルの頭字が其儘ある。夫人は「セシルの衣服です」といつた儘どつと後に倒て仕舞つた、無理もないことである、それから片時して夫人は我に返へり、一刻も早くセシルの傍にゆきたいといつたが大佐は人を遣つてチヤツキーを召んだ。間もなくチヤツキーが來た。此座の光景はどんなであつたらうかそれは讀者の想像に任せる、もはやセシルとチヤツキーとが同一人であるといふ事を疑ふ餘地がない、失つた子が歸つて來た。可憐のチヤツキーは自分の身の上を聞かされても何が何だか一向解せなかつた。繰り返し〳〵說き聞かされて漸く明方の段々と白んで來るやうに少しづゝ解つて來た。どんなに嬉しかつたらふ。あの美い婦人が母樣であの立派な紳士が父樣、そんならチエムは誰だらう、不思議でならない、小さきチヤツキーが斯う思つたのも無理はない。

婆やはチヤツキーを湯殿に伴れていつてお湯をつかはせたさうして眞白な軟い寢床の上に乘せた。眞實の母親は傍に來て撫たり接吻したりしてかはいがる。それからチヤツキーがまだ一度も食べたことのない甘味物をいろ〳〵持つて來たチヤツキーは床の上に座つて食べながら「夢ぢやないかしらんどうか醒めないやうに」と思つてゐる處へあの背の高いやさしい紳士が這入つて來て、チヤツキーに接吻した。リーも來た、リーは床の端に座つて切りにお話をする。チヤツキーは生れて始めてこんなに澤山接吻されて接吻に酔うたかして眠氣を催して來て遂に眠入つてしまつた。

シーモール夫人は何は扨て置きチヤツキー卽ちセシルに着物

をこしらへてやらなければならぬ。上等の品は又綾りとロンドンへ誂へるとして、差當り此近邊で水兵服を一着作らせた「これから段々と言葉づかひやお行儀を習はせなければならない、この兒はマー自分の名一つ書けないんだよ、何分今までがまるで野育だつたんだから仕方がない、マーなるべく窮屈に思はないやうに、出來るだけ面白くさせてやらなければいけない」と夫人がいつてゐた。食事の時怪い手つきでナイフやフオークを持てリーに笑はれたり其他いろ／＼おかしい事があつた、しかし生來怜悧な質である上に熱心に覺る氣があるから何事も非常に速く進歩した。それに容貌も優秀てゐたから、ちやんと着物を着せて髮を梳てやつたりすると立派な若樣である。全く僅か一二週間のうちに見違へるやうになつた。シーモール夫人はかね／＼ヂヤッキーを可愛がつて吳れた人々の所へ一々お禮にいつた。さうして村人から非常に喜ばれた。シーモール大佐の一家がスワンストンを引きあげてロンドンに歸る時分には夫人の健康も全く快復して大いに元氣づいた。又リー孃は思ひ懸なく弟を得たので非常な喜悦でいろ／＼な面白い昔噺なんぞを一生懸命に讀んできかせた。ヒシルはそんなお噺よりは父樣の虎獵や熊獵のおはなしの方が餘程面白いと思つたろう。

北清見聞記

任天津　片山幽吉

△清國人のマモニズム

地獄の沙汰も金次第と古からいふが、現世の事は金さへあれば何んで出來ない事は無い。夫かあらぬか最近のマモニズムの旺盛なる事は、然く許りである。分けても之が本家ともいはるべき米國の夫と來たら、夫は素敵な者である事は、誰も皆知つて居る。併し米國のは文明的マモニズム若くは大袈裟の夫で、ミリオナーで無い限りはお金持の仲間入は出來ないそうだ。之に反して遣方は頗る舊式である、規模も又小さく何の事は無い、金さへ集まれば可いといふマモニズムは、僕之を清國人の夫に見るのである。由來清人は非常にお金が好で之さへあれば御飯も入らぬ命もいらぬとさへ迄行く人種で、或方面からは米國人の夫に酷似して居ると、內地に居つて考へて居つたが、實際來て見ると豫想以上で唯々喫驚の外は無い。

吾輩は試みに清人の家を訪ぬると、門扉か入口の脇に赤紙に墨黒々と、色々な文字が書かれてあるのを見るであらふ。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

之は清暦の一月一日に張り換へるのだが、其句が頗る支那式である。四字二句が四句かであるが、其十中九分九厘迄は、お金に關して居る。曰く「對我生財」「生財有道」「財源豊富」「陶朱猗頓」等と、偶には「堯雨舜風」等の古色蒼然たる者もあるが、皆こんな樣に表面に遠慮無く之を標傍して、一向に之に憧るゝのである。吾人は此熱心に感ずる者なるが、併し之が餘りに極端迄行つて居るのを清人の爲に、取らないのである。斯う云ふ家風の下に育つ小供等、何ぞ其感化を受けざらんやだ。若し夫れ吾輩が十二三歳の小孩を月二弗位ひで雇はんか、

勿驚コムミッション主義

を忽ち實行するのである。夫も大袈裟な買物でもするなら未だしもだが、どんな僅かの買物でもである。例せば清國はお金の計算は大小銀貨銅子の三種に分れて、頗る六ケ敷。又日々之の相場が違ふから、大に困るが先づ一銅子を日本の八厘と假定せんか、此銅子二三個を持たせて、大根でも買ひにやる。ボーイは必ず之に對するコムミッシヨシを取る。而して之は公然許されて一般の法則になつて居るから、先方からも之を與へる。こんなのは賣買上からだから、一槪に排斥も出來ないが、官署迄も之だから困るのだ。我輩は何が肩書ある人間に遇はんとせば、無論馬車位で堂々と乘り込む必要はあるが、扨て玄關に至ると受付に金が要るのだ。之を出さぬと取次いで呉れない。併し之は强ち咎むべきでは無い。彼等は此收入で生活して無月給だからである。之に引換へ身は堂々たる總督の位地に居り乍ら、僅々二ケ月位に三十萬兩も私する那桐の如きは頗る感心は出來ないのである。上下如斯有樣で其甚だしきに至つては到底日本人では相像がつか無いのである。以下極端な實例を擧げて見ると

勿驚一厘の酢

といふのがある。之は清人のボーイに一厘を持たせて酢を買ひにやつた。所が彼は列のコムミッションを取らふとする。けれども一厘のコムミッションは、流石の清人も取れない。於茲一策を案出した。曰く自分は之を呑んでやらふ、其代りに水を入れてやらふと。此策によつて一厘の酢のコミッシヨンを取つたと、之は有名な逸話である。夫も其筈である。吾人試みに田舍へ旅行すると、清人特有のピンとかカワワザー等といふ、パンやフライ等も無い。於茲食物が無くて困る。夫だからとて斷食は出來無い。故に餘儀無くも例の粟粥をドンブリ大の茶碗に一盃引掛ける所が

勿驚其代價は僅々二厘

とは、而して一飯は二厘で濟む。萬事此有樣だから、天津邊りでも一個銅子の爲に、口角泡を飛ばし顔色を變へて大喧嘩をやる清人紳士は澤山あるのである。以上は餘り大問題の方

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

では無いが、モー少し振つた方では斯う云ふ例がある。夫は或日本人が、淸人はいくらお金がすきだ迚、マサカ腕の切賣はやるまいと思ふて、或田舎へ行つて廣告した。僕は近頃一本の腕を要す、故に金三十弗にて賣らんと欲する者は來れと。始の程は誰も來なかつたが、一日一人やつて來て愈々其事實なることを確むるや、曰く諸子が此腕を三十弗にて賣らんと、此人が近所に傳唱さるゝや、我も我もとやつて來られて、遂に持て餘し、今更に買はぬ譯にも行かぬが、一策を案じて一々之が檢査をやつて、色々難癖を付て、結局皆を不合格に終らしめ、やつと逃げて歸つたと。

勿驚腕一本が三十弗の價格。義手義足に多大のお金を拂ふ者は、一寸考へ者である。之よりも更に甚しき者がある。夫は天津日租界西街淸人町の邊りに、一寸した帽子店が有つた。之は淸人の店であるが、世界に大飢饉を來らしめし近頃の大不景氣は、此店をも容赦なく襲ひ來り、結局維持が六ケ敷なつた。こんな場合には淸人は思ひ切つた事をやるが、此店主又一活劇を演じた。

●夫は此店の品物を保險に入れ、次いで一日之等を隣家に移托し、さて一夕暗に乘じて自分の店に放火した。火は忽ちに燃ゑ上がりて、あはれ鳥有には歸したが、內無一物のガランドー僅かな紙屑位ひが散亂して居つたのだから、事もなく鎭火したが、其後直に此事は官憲巡捕の知る所となつて、愈死刑の執行となつたが、舊幕時代の日本の法律に髣髴たる淸人法律は、直に之を死刑斬罪に處する事になつたそうだ。而して其保險金額は僅々千弗で、日本金貨に換算すれば、七百圓餘であらう。

勿驚淸人一個の生命は七百圓

併し之は未だ高い方で、モット安いのもある樣だ。序に申すが、之は此頃あつた事實だが、淸人のクックの樣な一人は、例の藝者買を始め、遂々積つて五十弗(三十圓餘)の借金が出來た。所が金の工面が出來ぬ。其處で彼は己が大切な處を切つて、負債の取消を願つた。而して斯うすると之を許すが、昔からの習慣だそうであるが、斯樣な人間であるなら、百弗も出したら一命は慥かに買へるだろうと思ふ。併し買つたつて一向價値が無い。何の役にも立たぬのである。

水害救助手傳雜記

瀬谷孤浪

一

未曾有の大洪水！水害の慘狀！飢餓に頻せる幾萬の人民　と毎日の新聞紙は殆んど全紙面を之に埋めて居る、讀むでさへ胸がつぶれるに、實地を視察して其慘害の一層激甚なるに喫驚した。初めの日には基督教青年會の救濟に手傳をし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、糧食給與は申すに及ばず、菓子、牛乳なども分配した。

町の中を舟や戸板を組んだ筏が縱横に走つて居る。其間を避難者が續々と老人や小供の手を引いて、一本の竹に深淺を計りながら歩いてくる。大きな荷物を背負つて居るものもあれば、身體一つやう〳〵逃げ出したと思はれる者もある。腰を沒する水に衣の裾が兩足に吸ひついて、ともすれば女は倒れんとする。嬰兒をおんぶして右手に老いたる病父を助て來る窶れたる婦がある。其間を炊出しを乘せた車が數人の元氣よき掛聲で運ばれる。荷馬車が舟をつけて驅つける。「青物屋で御座いますが、途中の人込みで十一圓入の財布をすられました」と血眼になつてゐる巡査に訴へて居るのもあれば、親切に天幕に受け入られて氣が緩んだものか、俄かにわつと泣き出すお老爺さんもあつた。本願寺の避難處でお產をした人がある。名を水太郎とつけたそうだと話しながら通り過ぎるものがある。被害の慘狀は到底筆紙に盡されぬ。

二

二日目には北千住へ行つた慰問隊の後を追うて南千住から川向ふに行つて見たが、此處はまた一層に目も當られぬ。見渡す限り濁水の大海、あの長い鐵橋の下を漲り猛つて流れて居る有樣、さては二た切れになつて別々に引懸つて居る大橋の名殘り、沈んで居る家屋と堤上の避難者、………

日暮れて一同引き上げたが、廐橋を渡りつゝ空を見上げると今しがた過ぎ去つた夕立が殘して行つた雲の切れ目から、月が凄い顏をして我世を覗いて居る。斯る大試練に際して人々が如何な態度を取るかを監視して居るかの樣に見ゐる。自分も今回の慘事に果して能ふ限りを盡してるかどうかと考へたら、何だか恐ろしい氣に滿された。

三

婦人矯風會でも進んで救濟に着手されて澤山の慰問袋を募集して、井深夫人其他御年高の夫人迄も勇ましく輕裝して、出動されてゐる。それに御願して一緒に工兵隊の鐵舟に便乘して御手傳をした。裏長屋の引き窓や屋根を破つた穴から、這ひ出して來る老幼男女の人々が、思も寄らぬ貴婦人方の御見舞と慰問品とを受けてうれし淚にくれて居つた。

四

十八日には青年會救護事業幹部の視察隊に同行して本所、龜戶、深川方面に活動した。此日外に陸戰隊が二組千住方面と向島方面とに別れて勇ましく發足した。幹部視察隊は山本主事、桃井救護司令官、及び平澤氏と僕とを合せて四人の一組。始めは炊出の辨當を携帶する筈であつたが、到底間に合はないので、マッチ、蠟燭、淺草紙、飲料水、雜誌新聞等三臺の車に滿載して本所へ急行した。恰も出發せんとする際篤志者から「チユウイング、ガム」三百折の寄贈があつたので、小供向にと之れも積み込んだ。

船頭は輕裝を了へて待つて居たので、直に乘り移つた。特別の場合の用意にと途中で食パンの一山を買入れた。二人の船頭が一生懸命にこぐので船の進みは心地よい程早い。彼方からも此方からも屋上から助を呼んで居るが、大通は無數の救助船が絕へず往き來して、救助が比較的に行き屆いて居るから、一直線に裏長屋の狹い路次に進入した。こんな處は殆んと人に注意されないのと、少し大きい船は這入れないのとで、糧食運搬の任に當つて居る陸軍の鐵船さへ廻つて行かない程である。

相變らず慘憺たる光景である立退くことの出來なかつた人々は、天井裏や上手に構へた古疊抔の棚の上に僅かに活きて居る有樣である。何にせよ六日間も濁水に圍まれて物も買ひやうがないので、大概の家では日用品が全く缺乏して、マッチ、蠟燭、淺草紙は大に歡迎を受けた。二階と云ふ二階は避難者で溢るゝ許りで何所を見ても滿員の恣である。食麵麭の山は飛ぶが如に盡きて仕舞つても、空腹を訴へる人々は限りがない。

施すべもないので一應大通りに出る。幸に大きな船に店の小僧三四人を乘組せて救護に廻つてる篤志家があつた。桃井氏の氣轉で交涉の結果、快よく辨當三十本とおさつの湯でたのを澤山分けて吳れたのを持つて、更に引返して以前の裏家で最も急を要する人々に配布し終れば丁度午後の三時。夫れ迄應接の忙しいのと。一つは苦痛に耐へ兼れて居る人々の環視の中で甘ま相に食事する氣になれないのとで、一同空腹を我慢してゐたが幾らか近處丈けは濟んだので船を止めそこ〳〵に鹽を附けたおにぎりを食べる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

五

人氣のない空家に取殘されてる犬や鷄抔の樣もそゞろにあはれを催させる。浮んでる疊の上にひよこが二匹ひもじ相に見へたので、パンの屑を投げ與へると喜んで走せ出したが、平地と思つてたのが濁水であつたので、驚いて引き返したのには云ひしれぬ悲しい思が湧いた。

奇麗な可愛らしい親子三匹の小犬が今にも倒れそうに空しく過ぎ行く人を眺めて居るのもあつた。殊に一匹の洋犬は連日の水に浸つて首から胴に掛けて一面に「水かぶれ」が出來て、空腹と疲勞とで足も立たぬ有樣の、餘りに可愛想に思はれたので、人さへ救助し切れぬ此の場合、大切の一塊ではあつたが、食パンを投け與へるといたづらをされるとでも思つたか、慄ひながら逃け出したので、「あたら小供二人を援くべかりしに」と山本氏が云はれた。貧乏な裏長屋に育つた犬は食パンを喰物と知らなかつたのである。其裏長屋が水に沈んで居る。

六

配り〳〵て龜戸へ渡る、水は一層深さを増して來て、何時になつたら土を見る事が出來るかと思はれる程である。十三頭の乳牛が溺死して死骸がぶく〳〵浮いて居た。停車場附近に行くと家のない廣場が丸で大海の樣に見える、中には絶海の孤島の樣な所に避難して減水を待つて居る家屬もあつた。鐵道線路を乘り切つて深川へ向つたが、途中船の方向を間違へて、減水しかけた通に入つて、漸く川縁りへ來ると川岸には大きな船が竝らんで居て、僅かに間があると見ねを引きつた個處は大きな丸太お筏がつないであつた。仕方がないので一同下り立ちて船つて、やつとの事で筏を乘り越した。丸で戰場の樣な感がする。猿江裏町に來ると、此處らは篤志者の救護船も餘りないし、一層あはれに見えた。折角用意したのに餘り必要かないので之れのみは不用であつたと思はれた。飮料水が此邊では大變に大切になつて幾多の人々の渇を癒したか知れない。

烈しい働きの後全部を配り盡したので、舟を廻らして歸路に就いた。新高橋附近で上陸して處々水を渡つて電車へと進んだ。月は中空にさへ〳〵しき光を放ち、今日のみは微笑を含んでる樣に思はれた。

逗子みやげ

△九十歳の高齢になられる德富先生の修養▽

鹿子木津也

先日敎會からの歸途に電車の中で、大塚さんと御一所になりました時、何か新女界に載せる樣な御話をと責められましたのですが、私の樣なものは別に皆さんの御耳に入れる樣な事はなんにも存じませんから御斷り申上たので御座いますが、是非何かと云はれますので、私が母と一所に百日餘りの逗子生活中見きゝした事を申上る事にいたしました。

妾の逗子（ズシ）へまゐりましたのは櫻の花が散つて藤の花が開き始める頃でありました。皆樣も御存知（ごぞんぢ）の通りに逗子には敎會の信者でいらつしやる德富先生が居らしやいます。妾と母は毎日御伺（おうかゞ）ひいたして家庭の御集りに加はつて居りましたが、

ある日妾に馬太傳の講義をせよとの御言葉で御座いました。

御老人は有名な學者で御座いますし、又御一所に御集りになる海軍士官の奥さん達も皆教育のおありになる御方々でありますから、何も存じません妾が、どうしてと思ひましたから、堅く御辭退を申上たので御座いますが、御老人は子供の云ふ事でも善なる事、道にかなふ事あれば謹んで聞きます、あなたは私より聖書については深く御存知なのだから、是非やれと強ひての御すゝめで御座いましたから、御恥しい事では御座いましたが、一生懸命に申上ました。妾には能く分りません所がありましてもじ／＼いたして居ります時には、御老人は御自分で孔孟の敎と御比較なされるから、却つて詳しく御説明をなさつて下さる樣の事も御座いました。

何しろ孔孟の學を深く御きわめになりました御老人の事故妾のふつゝかな講義が終へますといろ／＼御比較なされて御批評をなさつて下さいましたから、妾達は大變悧怜になりましたので御座います。

御老人に就きまして特に御話し申上たいと思ふ事が二つ御座います。一つは御老人の御信仰の誠に深く厚いと云ふ事で御座います。信者はどなたでも堅い御信念は御座いますのが當然なので御座いますが、御老人はとりわけて堅い御信仰をもつて御出でになるので御座います。毎朝の御集りにどの樣に忙しい用事が御座りましよふとも、下女迄も御一所に御集めになりまして、御熱心に愉快に御集りをなさるので御座います。妾が御講義を申上る間は敎を聽のだからと申されまして實に形をあらためなさいまして聽いて御居でなります。私を上座にすえまして御自分は弟子の身分であるからと申されて何と申上ても下座に居らるゝので御座います。分りまする樣に申上兼ねた場合や忘れました折には人知れず妾は冷汗を流すので御座います。もう一つは妾達の眞に御老人に學ばねばならぬと思ふ事で御座います。それは御老人は來年

は九十歳と云ふ御高齢でありながら日々修養につとめらるゝ事で御座います。御自分が日々見出す缺點を羊の如くに又小兒の樣になつて矯正さるゝ事を御願い致すので御座います。聖人と申すのは御老人の樣な御方の事を申上るのでありましよふと存じます。

又御老人は常に御研究の念を強く御持ちになつて居られますから、妾達には極めて益になる御話を聞く事が度々御座ります。ある日奇蹟の御話を申上ましたのです、何しろ奇蹟の事に付きましては色々とむづかしい議論のある事と聞いて居りましたから、妾の樣なものにはとても御分りなる樣には御話し申上る事は出來ませんから只平常海老名先生からかう云ふ事と教はつて居りますると申上たので御座います。その時に御老人は自分の奇蹟の事に就いていろ／＼人々のむづかしく議論するところはこう解釋するとて次の樣な御話をなされました。

ある所の寺から鬼の繪の畫いてある卷物を、ある役人が持つて來たのを見た。その繪の説明をきくとこれは昔其地方には墮胎をする弊害があつたから、其地方を治むる當局者は鬼の繪を示して惡い事をすれば地獄へ行つて鬼に苛めらるゝと説明して、その風惡習を止めようとしたのであつたとの事である。こう云ふ事は文明の何物たるかと云ふ事を知らぬ人達の多かつた時分には最良の説明の方法であつたと思ふ。奇蹟の事も幾分かこの樣な意味を含んで居るもので、即ち教の何かを知らぬ古の民人を化する方便としてやつた事話した事であるだらふと思ふとの事で御座いました。誠に御老人は一時も忽にせずにつとめらるゝので御座います、馬太傳を終りますのに丁度五十二日を費しました。

妾はあまり長くなりますが終りに老夫人の事を少し申上たいと存じます。御老人の今日あるのは皆んな老夫人の御熱誠によるので御座います。一時は御老人はとても信者にはならぬと思はれましたのだそうで御座いますが、老夫人の眞心が遂に御老人を動したので御座います。この事を申上げただけでも老夫人の如何なる御方かゞ御分りになります事と存じます。それは／＼御熱心で一人でも導きたいと御自分から御出かけなさいまして、御集りに御出でなさいと御すゝめをして歩かるゝので御座います。あわれな者を救ひ、寂しい人々を慰むる事に全力を盡して御居でになりますので御座います。

相慕ふ村の灯二つ虫の聲　虚子

随感

孝子田孝子林

△此の世が、親を捨て子を顧みぬ程「自己」の營みが烈しくなつたとは私は思はぬ。日々の新聞紙は父子の間、夫婦の間、兄弟の間に起れるあさましき、いまはしき爭を報じて止むときがない。けれども利己主義自利主義の流を突き破つて、美しきなづかしき情の泉滾々として不斷に湧いて居るに相違ない。善事は多く隱れかちなものである、一村一邑の邊と雖も必ずや吾等を感奮せしむる事實は存するであらふ。然らずばいかで此世は存立の價値があらふ。正義なく至誠なき社會の行く道は遂に滅亡の一路である。

△孝子田孝子林、實によい名であると思ふ。讀者諸姉は己に御存知かも知れない。けれども繰り返へし更に又繰り返しても尙ほ切なる感じを伴ふ事實である。私は此事實の紹介の爲めに一頁を費しても諸姉の叱嘖は買はない事と信じる。

△孝子林孝子田とは、孝女小木曾つぎ氏に對して村民が山林三町歩を贈り及び頌表の金を以て田地を購入したるもの稱して孝子林孝子由といふのである。吾等をして今少しく彼の女に就て記する處あらし見よ。(婦人新聞による)

△小木曾つぎ女は明治八年三月十五日を以て岐阜縣土岐郡曾木村に生れた。父金作は素行修らず賭博を好んで、家財を蕩盡した結果彼の女は僅かに一ヶ年小學校に通學し得たのみで八歲の時より子守奉公に追ひやられた。彼女が子守時代から下女になつても給金は常に父に前借されて自分は一文も取り得なかつたけれども、彼女は健氣にも父の改心を願ふ事以外に何の氣もなかつた。彼女は暫らく父の傍を去る方が將來の爲めであらふと決心し、長野縣のさる醫者の家に奉行した。之が二十歲の時である。此處にて彼女は一意專心主家の爲めに盡くし約三年の間に四十餘圓を貯蓄し得たる後暇を乞うて鄕里に歸つた。父は相變らず酒と賭博に耽つて全然ならずものになり果てゝ居る、孝心深き彼女は貯へ來つた粒々辛苦の金四十圓を父の前に出して、どうか之を資本に生業に就いてくれる樣にと歎願した。至誠の前には何物も屈してしまふ。さしもの父も娘の切なる思を見た時淚を流して自己の罪を悔い、爾後彼は生れ變つた樣な人間となつた。

△彼女の困難はまだ續いた。二十二歲を以て彼女は農家の二男と結婚した。偶々本家なる兄の家庭は頑冥度し難き姑によりて風波常に絕えざる有樣であつた。彼女はあらゆる方法をもて調和を圖つたけれども遂に姑の不平を和ぐる事は出來なかつた。そこで彼女は自家の生計と平和を賭して其姑を引き取つて世話せんと、百方其夫に說き兄夫婦と談じて遂にやかまし姑を引きとつた、之が實に新婚二年の後であつた。彼女の家は小農に過ぎないから夫婦と小供と老母との生活を支へる事は中々の困難であつた。それで彼女は乳呑兒を抱へた身でありながら、農事の手傳以外に干魚や駄菓子の行商を營み、叢仕事や山稼もして人の三倍も立ち働き、而も又老母に對しては孝養至らざる所なく、貧困のうちにあつて姑一人に美味を味はしめ、例令多量にあるものなりとも、姑の食つた後でなければ子供にも與へなかつたといふ程である。

△一人の至誠は一人の至誠にして止まらぬ。彼女の夫も亦其心を以て姑に事へた。如何に堅く閉じた氷でも春の温さには解けずには居らぬ。斯くて二年三年と經る間に姑は全く別人となり一家は常に和氣靄々として春風長へに吹き渡つて居る樣である。兄夫婦も彼女の孝心を見て感激し自分等の未だ及ばざりし點あるを悔い、老母も亦喜んで凡てに接するに至つたといふ事である。

△彼女の德行は遂に官に知られて去る六月六日賞勳局總裁は彰狀に添ふるに金貳拾圓を以て彼女を賞した。尙村民も亦山林三町歩と金百圓を以て其償を表彰した。斯くて美濃國は養老の瀧以外に今又孝子田孝子林てふ絕好の名所を加へた。

△私は「如何にして妾は夫の放蕩を矯正したか」を麗々しく雜誌に揭載する事を怪しまぬ現代の婦人の中に、斯の如き偉婦人あるを聞いて、吾等の道いつかは此世に施かるゝ事を確信して疑はないものである。(楠男生)

編輯だより

△日韓併合の條約は愈々發表せられて我日本帝國は又々韓國を合せる事となりました。洵に欣びに堪へない次第であります。然し之によりて帝國の責任は益々重大になる事と信じます、千二百萬の國民をよく敎化し得るか否かは之れ吾國民が大國民たるか否かを定むる一の試金石であります。吾等は日韓合併を見て帝國の一大飛躍を喜ぶのみならず、韓國人民を親友として其世界に旅立ち得る事を喜ぶものであります。

△八月十四日の倫敦電報は悲しむ可き次の出來事を報じました。「千八百五十四年クリミヤ戰爭に於て看護婦事業を組織しナイチンゲール看護婦養成所に五千萬圓を寄附し千九百七年英國有數の有功章を授けられ、翌年倫敦自由市民權をうけたるフロレンス、ナイチンゲール孃は逝去せり」。慈愛平和の權化として世の渴仰を受けつゝあつた孃は遂に九十一歲の高齡を以て此世を去つたのであります。彼女は眞に婦人の理想とし儀表として殆んど完全な人でありました。孃は非常に謙讓な人なので生前に於て自傳などを書かれる事を好まなかつたので、其詳傳を造る事は困難であると聞きました、本社の客員なる村田勤先生は偶然に孃の傳記を脫稿せられたそうで、本月中旬には發行になる筈だそうでありますから、孃の詳傳を知らんとする人にとりては絕好の資料であると信じます。

△本月十七日午後六時半より及び十八日午後一時半より本鄉敎會に於て新人の第十週年紀念講演會を開く事になりました。三宅博士、姉崎博士、江原、島田、小崎の諸先生が御出演なさるそうでありますから定めし盛會であらふと思ひます。

△本月は編輯局は種々取り込んだ事がありました爲めに本誌に充分なる力を盡す事が出來ず、誠に意に滿たない處が多いのであります。讀者諸姉の御諒恕を願ひます。

△筆末で恐入ますが、過般洪水の時は御丁寧にも水害御見舞を頂きまして難有御座います。本社同人悉く無事で御座いますから御安心下さいませ。皆樣のうちには御遭難になつた方もおゐでになる事もやさ御察じ申して居ります、御見舞申上ます。

△諸種の投書を歡迎致します。締切は本月十五日限本社事務所宛に願ひます。

本誌定價｛一部金拾錢（郵稅ナシ）◎六冊半年分前金六十錢（郵稅ナシ）◎壹ケ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅ナシ）

外國行定價｛壹部金拾四錢（郵稅ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵稅ナシ）一ケ年分前金壹圓六拾錢（郵稅ナシ）

廣告料

行 廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	內表紙拾二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵券代用は一割增の計算にて御送附被下度候

御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候。但手數料金壹錢御加へ被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町三丁目九十三番地

新人社事務所

振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年八月二十九日印刷

明治四十三年九月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正

印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　相原一郎介

發行所　東京府下豐島郡巢鴨村大字巢鴨六百六十一番地　新人社

印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　審美活版所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

與謝野晶子女史著 木下李太郎先生表紙畫

第三版

女子のふみ

體裁優美菊判全一冊〇正價金四拾五錢　郵送料金八錢

特色――實用と文學とを調和せる女子書翰文範なり。

閨秀作家與謝野晶子女史が候文、言文一致、雅俗折衷文等の諸文體と溫健、優美、奇警、飄逸等各種の情調とを以て現代婦人界の必要に應じ實用と文學とを調和せる書翰文の一新例を示されたるもの、作例豐富、作法丁寧、且つ冒頭には一般の國語漢文に亘り假名說をも詳述せられたれば女子書翰文に添ふるに通俗なる假名遣辭典を以てせる至便の好著也。

鷗外博士夫人森しげ女著

小說 あだ花

洋裝總布極美裝帙入全一冊　正價九十錢　小包送料金八錢

あだ花は實らずして凋謝せし卷頭の小說の主人公を指して言へるかやがて著者の第一集の題號とはなれるなり過渡時代の文化に培はれて生せし一花艸はその色その香從來文界の慣れ見る所にあらず慣れ聞く所にあらず讀者果して奈何の觀をか作す

發行所　東京日本橋檜物町　振替東京二三〇番　弘學館

賣捌所　東京日本橋角　振替二三八番　大倉書店　其他

國民新聞社長蘇峯德富猪一郎先生序

高橋淡水著

最新刊

偉人と言行

（四六版三百餘頁）

定價　五十五錢　郵稅　金六錢

本書は素行益軒一齋尊德松陰南洲海舟福澤新島等我國近世に於ける思想界の十傑を選び其光彩陸離たる評傳と不朽の修養訓とを網羅したる者文章明快、議論透徹近時稀有の精神修養の好讀本廣く世の青年子女の愛讀を待つ

（弊堂圖書目錄入用の方は貳錢郵劵相添申込次第送呈）

東京市京橋區南小田原町三丁目

發兌元　樂山堂書房

振替口座東京七四九一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新人

第拾壹卷 第九號
九月一日發行
一冊金拾五錢
一ケ年壹圓六拾五錢

九月號目次

◉社說
●基督教の眞髓は自力主義也
◉講壇
●不義の財寶 …… 海老名彈正
◉想苑
●樂園現前の消息 …… 文學士 小山東助
●二十世紀の外國傳道上の問題 …… 哲學博士 ケーピン
●新約思想の背景 …… 中村長之助
●天意と人意と自然 …… 文學士 三井北川
●父として基督に示現せる神 …… 額賀鹿之助
●小泉八雲の面影 …… 文學士 川島金五郎
●外科室 …… 原陽炎
●朝の頌 …… 欽泉生
◉聖書の研究
●馬可傳、保羅
◉雜俎
●太平洋上より …… 文學士 海老名一雄
●清國の宗教 …… 片山幽吉
●講演を賴んで歩く記 …… 編輯小僧
◉評論
●教會と社會
●講壇以上の說教 …… 原胤昭
●教會の本質と社會の關係 …… 平岩愃保
●人生々活と接觸せよ …… 小崎弘道
◉時評
●地方に於ける精神教育
●警戒すべき論辯界の風潮
●閑人閑語錄
●日韓合併を祝す
●新刊紹介
●編輯室より

發行所 東京市小石川區小日向臺町三丁目 振替貯金口座一四〇〇五番 新人社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第壹卷
新人第拾卷　合本

裝釘堅牢優美永久保存に絶好也

定價

新女界　七拾五錢

新人　壹圓貳拾五錢

（郵税共）

日本輸入品に限り包裝紙に斜に「アイボリー石鹼」と記入し一見模造惡質石鹼と判別に容易ならしむ

御購求の節「アイボリー石鹼」に御注意を乞ふ

生徒募集

女子音樂園

（一）音樂科

ピアノ科　オルガン科

ヴァイオリン科　琴科

唱歌及び樂理科

●右は一科以上幾科でも兼修が出來る

●初學者こ否こを問はず、いつでも入學が出來る

●普通科、受驗科、高等科等にも補缺入學を許す

（二）繪畫科

日本畫科　顧問　川端玉章　同　荒木寛畝

塗板畫科　同　川合玉堂　講師　川村東陽

●初學者と否こを問はずいつでも入學が出來る

（三）割烹科

西洋料理　學習院女學部講師　和久井淺之助

日本料理　同　三枝富吉

詳細の事は申込次第規則書を送ります

東京下澁谷女子音樂園

（青山電車終點より直に左折約五丁）

第四回新學期開始本月限り入會金免除

▲東京時事新報曰く　日本女子大學校が教育擴張の大運動第一着手として毎月二回發行する物は本講義なり
成瀬校長の實踐倫理學、福來博士の心理學、大澤博士の生理學、浮田博士の應用社會學を初め**家事**料理及び**裁縫**等にも一々に專門の大家に依つて叮嚀に講述せらるゝを以て**地方在住**の諸嬢は本講義に依り高等の學術を修得するの便あり

▲東京朝日新聞曰く　四十二年四月開講以來非常なる發展をなしたる**女子大學講義**は**眞摯**と**熱心**なる**講義**振りに大に女子の歡迎を受け居るが十月より第四回新學期を開始して新入會員の便宜を計りつゝあり

女子大學講義

どうぞ**見本**を**請求**して下さい

端書にて申込次第進呈す

講義錄と實益　**講義錄と程度**　**婦人雜誌と家庭**

徒に學理の研究のみに止らず實用を旨とし特に賢母良妻に必要なる育兒家事料理裁縫等の實科目を適切に講義せり

普通學科を平易に解釋し女學校卒業程度にて十分に解釋出來得るやうに編輯せり六づかしからんと思ふは誤解なり

會員には毎月婦人雜誌家庭を無代に配布せり、本誌は櫻楓會を中心とせる現代の女流記者が毎月熱心に編輯する物也

日本女子大學校櫻楓會編輯

發行所　東京小石川區久堅町百八番地　**精美堂**（電話番町九三二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察、月、水、木、金、午前入院、診後應需、
松田、林、峰岡三副長ハ目下當院ニ在勤、
電話本局 八八八番(病院用) 八九八番(私宅用)

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱、従停車場半里
電話 チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

看護婦志願者募集

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

本誌愛讀者

諸君は

ライオン歯磨を使用したる後啻に口中の爽快を覺ゆるのみならず諸君の齒牙が如何に光澤を有し如何に健强となれるを知りや

ライオン歯磨を用ゐたる時の口中の爽快と齒牙の淸淨とは恰も入浴後に覺ゆる快感に等しきなり

家庭用

美術大鑵入

最も御德用向

體裁優美にして正味頗る多量而も價格の廉なるが故に家庭用として好評嘖々たり

（定價　壹個　金廿五錢）

◎試用見本御入用の方は振替貯金又は郵券代用にて申込あれ直ちに郵送す

發賣元　東京市神田區柳原川岸　小林富次郎

振替貯金口座東京二五二六番

支舖　大阪市東區博勞町　淸國　天津　漢口

明治四十三年九月一日發行第貳卷第九號